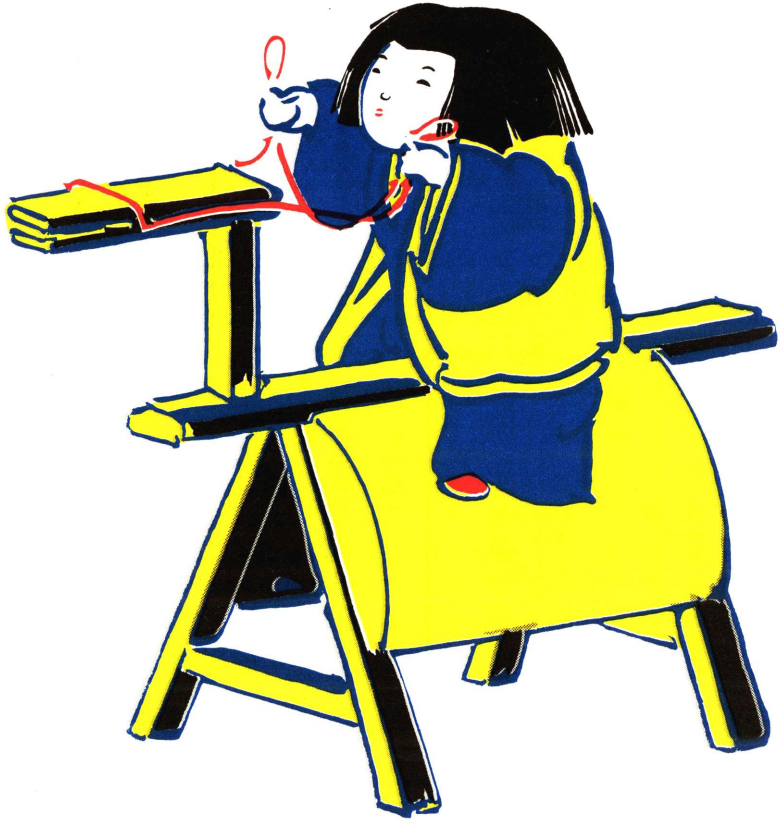
幼兒之教育



第四十二卷　二月號　第二號

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編　（五　版）

改訂增補 系統的保育案の實際

定價　金壹圓參拾錢　送料　金六錢

初版以來廣く參考の資料こせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識こ、特に國民學校の新制に對する用意の必要こから到底舊版のまゝに止まるここを許されなくなりました。全體に亙る改訂こ增補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集（四版）

菊版三五〇頁　定價金壹圓五拾錢
送料　市內　金六錢
地方・北海道・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲　金拾五錢

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

觀察の實際（再版）

菊判一三〇頁　定價金壹圓
送料東京市內金六錢　其他金九錢

幼兒の教育（月刊）

一ヶ月　金參拾五錢　送料金一錢
一ヶ年　金四圓貳拾錢　送料共

東京・小石川・大塚三五
東京女高師附屬幼稚園內

日本幼稚園協會　振替東京一七二六六

生徒募集

本科生四十名

研究科生若干名

願書受付三月二十日迄規則書は參錢切手封入の上申込まれよ。

創立以來廿八年。
大正五年東京市麹町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、附近に森あり、野あり、川ありて四時自然の恩惠を受け、本校の特色とする自然觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用の手工等材料豐富なり。

玉成保姆養成所

所長　ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三

省線　西荻窪下車直南約五丁

生徒募集

一定員　七拾名

一出願期限　三月末日迄

規則竝ニ入學案内ハ參錢切手封入申込マレタシ

東京市品川區大井原町五二〇八（省線大井町驛ヨリ城南バスニテ原停留場下車二分）

東京昭和保姆養成所

所長　土川五郎

顧問兼講師　東京女子高等師範學校教授　倉橋惣三

保姆生徒募集

一、募集人員　六拾名
二、出願期日　二月一日ヨリ三月中
三、入學案内　入用の方は參錢切手同封申込ありたし

昭和十七年一月

東京目白保姆學校

所在　東京市淀橋區下落合三丁目一三八八
電話　落合長崎二五五九番
校長　和田實

△定員　六十名

△締切　三月二十日

△保姆無試驗檢定

△寄宿舍完備

佛教保育協會　中野保姆養成所

東京市中野區宮前町　電話中野五八七〇番

△附設の感應幼稚園にては皇紀二千六百年記念事業として全園兒貳百餘名に對し榮養給食を實施いたしましたので保姆科生徒に正科目として給食竝割烹の實習を課し保姆としてまた母の敎養として萬全を期してゐます

△交通は省線新宿驛より五分です

生徒募集

一、募集人員　一百名

一、出願期限　三月末日迄

無試驗檢定ノ特典アリ

規則書入用ノ方ハ參錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三ノ二九八
聖心學園内(電話中野二四八四)
省線高圓寺驛　青バス　西武電車高圓寺三丁目下車

東京保姆專修學校

靜寛院宮幼時の御姿に擬せる「鏡樣」人形の頒布

「一女子ノ身ヲ以テ國難ヲ匡濟スルノ用ニ供スルコトヲ得バ水火ノ中ニ投ズルモ辭セズ」と悲壯なる決意を以て、德川十四代將軍家茂公に御降嫁遊ばされたる和宮後の靜寛院宮樣こそは、洵に我が殉國犧牲の象徵にして、又その貞烈淑正の令德は萬代婦道の典型として國民齊しく仰ぎ奉らねばならぬことであります。

今回本會に於ては宮樣御婦德宣揚の一助として「鏡樣人形」を廣く同好の士に頒布することにいたしました。此の御人形の原型は宮樣の側近者を出せる正六位法有孚家所藏にかゝる由緒深き御人形にして、人形製作の大家山田德兵衛氏が謹製したものであります。

尙ほ此の御人形の原型は國定教科書小學國語讀本卷十二にも登載され宮樣の尊容を偲び奉る史料の確實なるものはこれ以外にないのであります。又本人形の添書中には宮樣の御眞蹟の對鏡の御歌を奉戴し、題字は御宗家德川公夫人泰子樣の直筆にかゝるものであります。

昨年三月お雛祭りに際し　右御人形を吳竹寮　成子內親王殿下に御獻納申上げたる處相次いで皇后宮職各宮家よりも頒布方御下命の光榮に浴しました次第であります。

冀くば江湖諸賢の御贊同により廣く一般家庭、幼稚園、小學校、女學校等に奉安されんことをおすゝめ致します。本品はその後各方面よりの希望極めて多く一時品切れとなつたのを今回特に再製いたした次第であります。（昭和十七年一月）

鏡樣人形代金並送料

御身長　髻先まで　七寸（曲尺）

黑塗台及五方硝子ケース付

（ダンボール製內箱入）　停止價格　金貳拾圓也

送料　地方書留ニテ　金五拾七錢

市內　同　金五拾七錢

別ニ荷箱代　金壹圓五拾錢

（代金引換ハアリマセン）

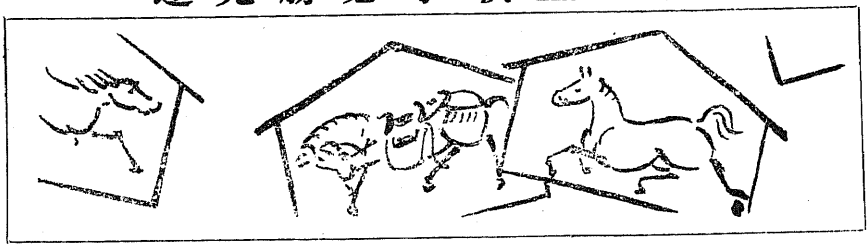
頒布元　財團法人　**靜寛院宮奉賛會**

東京市芝區芝公園增上寺中

電話芝（43）四四六番

振替東京七七〇八三番

大東亞戰爭必勝完遂



第四十二卷　幼兒の教育　第二號

(目　次)

戰時國民幼稚園(一)……倉橋惣三(一)
誌上講習國民學校理數科の實際(その二)……堀七藏(二)
教養講座萬葉に於て日本的感情を見る(二)……石井庄司(八)
幼稚園の大詔奉戴日に就て……倉橋惣三(一三)
ふくらみ雛……及川ふみ(一五)
幼稚園託兒所視察記(一)……多田鐵雄(一八)
教育者としての保姆(一)……倉橋惣三(二三)
リズム遊び……みどり會音樂部(二九)
郵便局遊び—誘導保育案の一例……清水光子(三六)
冬ごもりのお友達……町田行子(三八)
各地幼稚園だより　鹿兒島・吳……大利迫トミ島勝造(四一)
誌上講習兒童心理學(二)……牛島義友(四五)
月刊「幼兒の母」に就て……(五〇)
幼兒の母……(五一)
家庭に於ける大詔奉戴(題言)——幼稚園から——教育講話(倉橋惣三)
子供向きお菜(佐々木理喜子)——二月の衞生(齋藤文雄)

新發賣！

◉森永クレヨン

（文部省認定標準色）
（商工省指定一級品）

定價 ㊀ 一箱 金二十九錢（十一色保育用）

特徴

一、本クレヨンは從來の蠟質クレヨンの缺點を改良して、國策的見地から創製された最優秀品で他製品とはその質を異にした唯一のものであること

二、文部省撰定の標準色に正しく合せ、鑛物質のために變色褪色の心配のないこと

三、パステルのやうに指に着かず粉が飛ばず紙面を汚さない上に、消ゴムの使用が自由なこと

四、定着力が強く畫面が惡光りせないと共に、パステル畫風、油繪風に指導が容易なこと

五、重色混色が自由で發色が良いこと

六、火に溫めて鉛筆のやうに尖らすことも出來、また細線が自由なため、圖案、デッサンにも適すること

七、蠟製品に比し消費量（減り方）の少ないこと、また折口を溫めて接合が出來る經濟的なこと

八、鉛分を含まないから絕對的に無害衛生品であること

九、襖や疊等に附着した場合消ゴムで落ちること

一〇、暑熱のため曲らない、ねばらない、その上に古くなるほど益々特徴を發揮する事

推薦の辭　東京美術學校教授　松田義之

今回森永配給會社から發賣することゝなつた森永『クレヨン』は全く新らしい創製で、而もいろ〳〵の點に優秀であるやうに思ふ、卽ち先づ商工省が優良なる製品たることを證明してゐる、而も從來のものと原料を異にし、非常に多量に製產し得る可能性がある由である、この點誠に賴母しい、發色もよく色相も標準色に合致してゐる、混色も自由であるし、手につかぬ、經濟的でもある、また他のクレヨンに見る、いやな光澤も少いから色の品がよい敢て推賞する所以である。

前東京市（圖畫手工擔任）視學　東京市日野工業青年學校長　宮本幸惠

接合出來る經濟的なクレヨン

圖畫用具の中で、一番問題になつてゐるのは、恐らくクレヨンである、此はクレヨンが其丈重要であるのに、幾多の缺點を持つてゐるからである。（一）よく折る。（二）蠟分が多くて紙に載らない。（三）線畫が出來ない。殊に昨今資材の不足に伴れて、益々其質が低下し、クレヨン改良の聲は、今や兒童敎育上切實緊急の問題である。

然るに『森永クレヨン』は從來の三大缺點を遺憾なく改良したことは勿論色澤鮮明で實に標準色と一致し、混色が自由で又ゴムで消すことも出來れば萬一折れても煖めれば容易に接合することも出來甚だ經濟的である。卽ち圖畫敎授の上に又使用管理の上に極めて適當である。

注文方法

一、御注文はハガキにて數量明記の上東京保育研究所**奉仕部**へ御申込み下さい。御注文書到着と同時にすぐ御送り致します。

一、代金は引換または納品後一週間以內に御拂込み（振替口座東京一六七〇四二東京保育研究所へ）下さい。

一、見本御入用の方は金三十二錢（郵稅共）振替口座へ御拂込みの上御請求下さい、直ちに一函御送り致します。

一、補給用として各色（赤、青、黃、綠、空、紫、茶、鼠、橙、黃、土、黑）御希望の向きはハガキにて御問合せ下さい。

東京保育研究所奉仕部

東京・神田・一ツ橋・敎育會館
電話九段四一五一—四一五五番
振替口座東京一六七〇四二番

戰時國民幼稚園

～ぶけさを歳萬に共と等子(一)～

倉橋惣三

明治天皇御製

ものをだにまだいはぬ子も萬代とよばへばやがて手をあげにけり

畏れ多い申しやうではあるが、御製のまゝの場面は、大詔渙發の十二月八日以來、皇國到る處に日々に見る實景である。實に、八日その日の朝からの實景である。ものまだいはぬ子等さへさうである。既に幼稚園に來てゐる幼兒等に於ておや。高々と兩手を擧げるばかりでなく、萬歳々々と、聲高らかにさけびつゞけるのである。

この大戰爭は決心せられてゐた。必勝完遂も確信せられてゐた。しかし、この戰果の何んたる輝かしさぞ。この進擊の何んたる速かなことぞ。この大勝の何んたる逞しいことぞ。何んたる連勝ぞ。何んたる席卷ぞ。今更に、大稜威の宏大に感激し、皇軍の勇武に感嘆し、たゞ〳〵喜び胸に充ち、涙眼に浮びて、萬歳々々とのみ、手を擧げて相よばふばかりである。

長期決心の覺悟の前に、緒戰の勝利に誇つてならぬことは充分自戒してゐる。しかし、覺悟は覺悟、喜悅は喜悅であることを妨げまい。喜悅といふは足りぬ。感激であり感嘆であり、合せて込みあげる感謝である。さけばずしてゐられやうか。幼兒等も和唱せよ。手を擧げて聲のかぎりよばへよ。その貴い幼時に、この絕大の光輝に遇ひ得る幸福を以て。この大勝が如何に大きな意義をもつものであるかは測り知り難い。しかも、それが、われ等の幼き子等の純な心に及ぼす影響、その無垢な記憶に殘る效果だけから言つても、その意義實に深いものがある。幼き子等は、大稜威の宏大をまのあたりに仰ぎ見つゝ育つのである。皇國の實力の偉大さを幼心に實證せられつゝ育つのである。我等は、この大きな國民的喜悅を、次から次へと、幼き子等に告げ聞かせ得る國民教育者としての至幸を、何んと言ひあらはしてよからう。

大東亞戰爭下、職域を幼稚園に與へられてゐるものとして、抑へ難い心のありのまは、先づこの至幸である。萬歳をさけばう。子等と共に。子等をして、手を擧げて、萬歳をさけばせやう。我等と共に。

誌上講習

國民學校理數科の實際（その二）

東京女子高等師範學校附屬國民學校主事　堀　七　藏

一

一、國民學校理數科の要旨竝びに理數科算數及び理數科理科の目的について既に述べたのでありますから、次には理數科の教材について說明することに致します。

さて理數科は從來の算術と理科とを統合したものでもなく、また既成の數字や自然科學の體系によつて統合したものでもありません。專ら國民學校の目的達成のため、新に設けられた教科でありますからその教材は當然國民學校の目的に從ひ、理數科の要旨を達成するに適切なるものを精選すべきであります。即ち自然界の事物現象並びに國民生活について、理數科の目的を達成するに必要なるものを、兒童心身の發達に留意して精選せねばならぬのであります。

而して是等の教材を配列するに當つては、次の事項を十分考量することが肝要であります。

(1)考察・處理の對象たる自然界の事物現象並びに國民生活は、兒童の生活環境の展開に伴なつて發展させねばならぬのであります。

(2)觀察は對象の素朴的直觀を根基として、次第に分析的竝びに綜合的な觀察に進んで、これを精緻にすることが肝要であります。始めより精緻なる觀察を要求することも、それは不可能のことであるが、何時までも素朴的直觀に甘んずるが如き之も禁物であります。また常に素朴的な觀察に始終して、綜合的全體的な觀察を缺くが如きことも不適當であります。

(3)思考は事物に卽した素朴的な判斷から進んで、次第に論理的に正確にすると共に、次第に理知的直觀力の進化に努めねばならぬのであります。

(4)處理は素朴的な操作から始めて、次第に的確にすることが緊要であります。

(5)觀念・知識は日常卑近なものから次第に國民の教養

を高めるものに發展させねばならぬのであります。

以上は國民學校理數科に於て教材を配列する條件であります。稍〻抽象的に列擧せられてゐるのでありますが理數科の目的を達成する爲に新に精選せられる教材を配列する根本原則であります。

この趣旨に基づき學年の進むに從つて次のやうに展開させるのであります。

第一期(初等科第一、二學年)

兒童の環境に於ける事物現象を素朴的に考察、處理させ、事物現象に卽して初步の觀念、知識、知能、技能を得させるのであります。

第二期(初等科第三學年)

考察・處理を次第に理知的な方向に向はせるのであります。

第三期(初等科第四、五、六學年)

教材を更に整頓して排列し、正確な考察的確な處理の基礎を確立し、基礎的知識を得させ、基礎的技能を磨かせるのであります。

第四期(高等科)

初等科に於ける基礎的陶冶の上に、國民生活に於ける事象を全體的に考察處理することの修練に重きを置くのであります。

二、以上は國民學校全般に理數科の教材を排列する大綱を示すものであります。この大綱に從つて內容を具體的に排列して、玆に理數科の體形が形造られるのであります。さうしてそれを算數・理科の兩觀點から見て類別し、算數・理科の體系が形造られなくてはならぬのであります。これを詳細に具體的に說明することは中々容易でありませんが今二、三の例を擧げて全貌を理解する手がかりといたしませう。

(1)先づ觀察について考へます。視覺、聽覺、觸覺、味覺嗅覺等の感覺を通じてこの直觀は第一期から第四期まで繼續して修練せられますが、初の方ほど力を入れなくてはならぬのであります。而してこの直觀によつて得られる物の色、形、堅さ、音などの性質は理科に屬するものとして取扱はれますし、時間、空間に對する直觀は算數に屬するものとして取扱はれるのであります。勿論かくして得た觀念に基づく觀察は理科・算數の兩科目に於て修練せられるのであります。

自然の事物現象の中でも運動するもの、また變化するものには、第一期から興味をもつて觀察するものであります。第一期の兒童は活動期にありますので、運動するもの、變化するものに對しては興味をもつて觀察するものであります。そして最初は一時的で、しかも全體的な觀察をするが、

第二期、第三期と進むに從つて繼續的に、又分析的、綜合的に觀察するやうになるものであります。この變化するものについて、特に數に關するものに着目すると、數の增減となつて算數に屬することになります。また第三期頃になると事象について數量の變化を分析的、綜合的に考察するやうになるのでありますが、これは事象の函數關係を見るものであつて、算數に於て基礎づけられると共に理科で自然の理法研究の仕方として取扱はれるのであります。

自然の事物現象で、

靜態を觀察するのに、最初は感覺的な直觀を以てするが、次第に思考を伴ふやうになります。その中、數に關するものは數の構成として算數の領域に入り、形に關するものも算數に於て明確にせられるのであります。第三期頃になつて部分や要素に着目して觀察するやうになると、物の構造・機構の認識となつて理科となります。尙ほ比較觀察によつて物の屬性を知るのであるが最初は性質を直觀的に認識することから始まり、第三期頃から物の特性通性を一層明確に認識するに至るもので、主として理科の領域であります。しかしかやうな比較觀察に於て、數量の大小や形の相違が算數に屬するものと採上げられて行くのであります。

(2)次に處理について考へます。第一期に於ては、兒童の直觀に基づき情意の要求に從つて分類させるのであります。進んでは場合に應じた特殊な目的に從つて、第三期となると系統的な分類にまで至らしめるのであります。是等は科學的處理の一として理科の領域に入るものであるが、この分類と蒐集・記錄とを併せ考へると、その方法の修練が統計や圖表の指導として算數に於て取扱はれるのであります。

以上の如く理數科の教材として選擇せられたるものが、その特質に應じて算數、理科の科目となるのであります。

二

理數科算數は「數・量・形ニ關シ國民生活ニ須要ナル普通ノ知識・技能ヲ得シメ數理的處理ニ習熟セシメ數理思想ヲ涵養スル」に適する教材が精選せられるのであります。それで算數に於て、考察處理の對象となるものは、自然界竝びに國民生活の事物現象中から數量的に、また空間的にはたらきかけるに適したものが採上げられるのであります。尙ほこれ等の對象に對する思考の發展として、「考へられたもの、」例へば抽象的な數とか圖形とかいふやうなものがまた對象となり得るのであります。そして理數科算數では是等の對象を、數・量・空間の方面から見ようとする見方、簡單化し、一般化し、抽象化し、具象化して考へ、論理的に嚴密を期さうとする考へ方が强いのであります。また扱ひ方としても數・量・空間の理法に基づき、それに直接につなが

るところに特徴が認められるのであります。例へば計算にしても、統計・圖表の取扱にしても作圖、測量にしてもさうであります。

かく理數科算數は、上記の如き對象に對して數理的なはたらきかけをすることの修練の過程に於て、「國民生活ニ須要ナル普通ノ知識・技能」が獲得せられ「數理的處理」が練磨せられるのであります。

それで算數の教材として主なるものを列擧すると、次の如くであります。

(1)對應・集合・順序・連續・無限・極限の觀念、是等の觀念は幼少の時からだん〳〵發達するものであります。相撲で東の大關と西の大關などとするのは對應の觀念の一種であります。數や量で對應の觀念が發達するし、空間でも對應があり、いろ〳〵の方面から對應の觀念はだん〳〵發達いたします。また集合の觀念でも順序の觀念でも同樣であります。連續する數、量の觀念もだん〳〵に發達するものであり、無限・極限などの觀念は幼少な時代から次第〳〵に發達するものであります。

(2)整數・小數・分數の觀念・性質及び計算の方法。整數の觀念・性質及び計算の方法は小數、分數の觀念・性質及び計算の方法よりも早く發達することは勿論であります。しかし分數の觀念は初等科第四學年なり第五學年なりにならぬと出來ないといふものではありません。初等科第一學年から分數の觀念は次第々々に發達するものであります。林檎でも柿でもその半分なり四半分なりをたべるといふやうなときには既に分數の觀念が養はれるのであります。小數の觀念も同樣で或る學年になつて突然養はれるといふものではないのであります。尤も小數や分數の計算法は初等科第一、二學年では容易に理會せしめることは出來ないのであります。

(3)量の觀念、單位、測定及び測量の方法、量の觀念も數の觀念の如く、幼少のときから漸次に發達するものであります。多いとか少いとか、大きいとか小さいとか、長いとか短いとかいふやうな觀念は早くより發達するのであるが、單位を以て測ることは幼兒期には中々出來ぬのであります。しかし國民學校初等科では第一學年より測定することから、始めて、測量することも漸次行はせるのであります。數理的處理は單に計算することだけでなく、測定、測量も重要な數理的處理であります。

(4)方向、位置、配置、形の觀念　是等も理數科算數の重要な教材でありますが、勿論理科でも常に取扱はれるものであります。

(5)圖形の性質、求積法、圖法　是等は相當程度の高い教材の如く考へられるが圖形の性質は幼稚園保育に於て色

メ日常普通ノ自然物、自然現象、其ノ相互並ニ人生トノ關係、人體生理、及ビ自然ノ理法ト其ノ應用ニ關スル事項ヲ授クベシ。

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ産業、國防、災害防止、家事ニ關スル事項ヲモ授クベシ」と、規定せられてあるものであります。

この規定では、初等科に於ては「兒童ノ環境ニ於ケル自然ノ觀察ヨリ始メ」とあるが、「自然ノ觀察」を理科の外にある科目と考へてはなりません。「自然ノ觀察」は「自然科」でもなく、また「自然觀察」でもないのであります。初等科の低學年理科の內容として、「自然ノ觀察」が考へられてゐるのであります。理數科理科が低學年では自然觀察といふ科目になつてゐるやうに誤解してはなりません。特に「自然科」と「自然觀察」といふのでなく、「自然ノ觀察ヨリ始メ」とあるのは低學年理科の內容を示すものであります。而して單に「自然ノ觀察ヨリ始メ」となすときは、自然といふ言葉が廣く解釋せられる虞がありますから、わざ〳〵「兒童ノ環境ニ於ケル自然」となし、その自然を觀察させることから始めて理科一般に及ぶべきものであるといふ精神を明白にしてあるのであります。卽ち初等科第一、二、三學年に於ては、兒童の環境に於ける自然、卽ち兒童身邊の自然物、自然現象、製作物に關する素朴なる考察處理をさせ、簡易な板並べをなす際に於ても次第々々に養はれるものであります。それで國民學校初等科第一學年より是等の教材が精選せらるべきであります。

(6)關係觀念、圖表示、統計的方法　關係觀念も幼少の時から次第々々に發達するものであり、圖表示、統計的方法も國民學校第一期より精選せらるべき算數教材であります。

(7)國民生活に於ける數理的事象とその處理是等の教材は「國民生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ得シメ數理的處理ニ習熟セシム」る上に大切なる教材で、初等科第一學年より始め漸次その量を增加すべきものであります。

三

理數科理科は算數と相俟ちて理數科の要旨を達成するが爲め、「自然界ノ事物現象及ビ自然ノ理法ト其ノ應用ニ關シ國民生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ得シメ科學的處理ノ方法ヲ會得セシメ科學的精神ヲ涵養スルモノ」であります。故に理數科理科に於て、考察處理の對象となるものは自然界の事物現象が主要なものであるが、自然の理法の應用によつて作られたものも含まれることも勿論であります。また國民生活に於ける事物現象を除外するものではなく、自然と人生との關係を明らかにすることは極めて重要な事項であります。それで國民學校令施行規則第九條には

「初等科ニ於テハ兒童ノ環境ニ於ケル自然ノ觀察ヨリ始

工作を課し、自然に對する眼を開かせると共に處理方法の初歩を指導するのが低學年の理科の內容であり、それが自然の觀察であります。而して次第に理科一般に及ぶべきものであります。この理科一般といふのは日常普通の自然物、自然現象、其の相互並に人生との關係、人體生理及び自然の理法と其の應用を包含してゐるのであります。自然物自然現象は所謂森羅萬象を悉く包含してゐるから、特に「日常普通の自然物、自然現象」と限定せられてゐるのであります。また「其ノ相互並ニ人生トノ關係」といふ言葉は頗る廣い意味をもつてゐるのであります。卽ち「自然物」を大別して「動物、植物、鑛物」となし、「自然現象」を大別して「天象、氣象、地象」となして考へると、「其ノ相互」は「動物相互、植物相互、鑛物相互」及び「天象相互、氣象相互、地象相互」は勿論のこと、「動物と植物、動物と鑛物、植物と鑛物」相互、「天象と氣象、天象と地象、氣象と地象」相互をも含みます。更に「天象と動物、動物と氣象、動物と地象」相互、「植物と天象、植物と氣象」相互といふ工合に自然物と自然現象相互の關係を廣く包含するのであります。また「並ニ人生トノ關係」は「自然物と人生との關係自然現象と人生との關係」を意味するのであります。故に「其ノ相互並ニ人生トノ關係」は非常に廣汎でありますから、特に「日常普通ノ」と修飾して「自然物自然現象」を限定するのみならず、「其ノ相互並ニ人生トノ關係」をも制限するものであります。卽ち「日常普通ノ」といふ語は「自然物、自然現象」にかゝるのみならず、「其ノ相互並ニ人生トノ關係」にもかゝるのであります。それは國民學校では國民生活に須要なる普通の知識技能を得しめ科學的處理の方法を會得せしめ科學的精神を涵養することを目的となすからであります。

以上の如く理數科理科の教材を規定してありますが普通の理科教材としてその大要を列擧すると次の如くであります。

(1)動物・植物の形態、生態
(2)鑛物の性質
(3)物質の性質、物質の變化
(4)物體の運動
(5)音・熱・光・電氣・磁氣の現象
(6)天象、氣象、地象
(7)製作物、合成品、加工品
(8)人體生理・衞生
(9)科學的處理の方法・技能
(10)上記各事項の相互並びに人生との關係

以上の教材を初等科第一學年から高等科第二學年に排列するのであります。單に階段的に排列するのみならず成るべく圓周的に排列して國民生活に須要なる考察處理の能力を修練するのであります。

教養講座

萬葉に於て日本的感情を見る（二）

東京女子高等師範學校教授　石井庄司

一、わらべ心（つゞき）

○

大殿の　この廻の　雪な踏みそね　しばしばも　降らざる雪ぞ　山のみに　降りし雪ぞ　ゆめよるな　人や　な踏みそね　雪は

反歌

ありつつも見し給はむぞ大殿のこの廻の雪な踏みそね

この歌は卷十九に出て居りまして、作者は三形沙彌といふ人であります。三方沙彌は藤原房前に仕へてゐた人のやうで、この歌は、房前の語を承つて誦んだものといふことであります。その歌を笠朝臣子君といふ人が聞き傳へて居り、更にまた越中國の掾の久米朝臣廣縄が傳へて大伴家持に知らせましたので、家持が書きとめておいたといふことであります。この事情でわかりますやうに、この歌は始めから文字に書き記されたものではなくて、口から耳へと歌ひ傳へられてきたものであります。さういふわけで、この歌にはなんとなく快よい調子があります。ごうか繰りかへしてよく讀んで下さい。まことに素朴な歌ひぶりです。「雪やこんこ、霰やこんこ」と走り廻つてよろこぶ幼な兒の面影があるではありませんか。

普通の長歌といふものは、五音、七音、五音、七音といふやうに型がきまつてゐるのですが、これはその型にも拘はらず、思ふまゝにぐん〳〵と自分の感情を歌ひのけてゐます。そんなところは、今の童謠或は民謠などとも通ふところです。大伴家持も聞いて面白いと思つて書き留めておいたものでせうが、たしかに特色のある作です。

さて歌の意味は、藤原房前卿のこの御座敷のめぐりの雪を踏むなよ。さう度々は降らない。珍しい雪だよ。山ばかりに降つて、かういふ都には降らなかつた雪だぞよ。決して雪に近寄るな。人々よ。踏むなよ、雪は。といふのであります。ぽつり〳〵と短く切れて居ります。試みに行をか

へて書き改めてみると、かうなります。

大殿のこの廻の雪な踏みそね。
しばしばも降らざる雪ぞ。
山のみに降りし雪ぞ。
ゆめよるな人や。
な踏みそね雪は。

これでよくわかりますやうに、長い句と短い句とが交つてゐますが、始めは比較的長く、後になるほど短くなつてゐます。これは感情の昂ぶつてゆく有樣をありのまゝに示してゐるものと思はれます。なんの巧みもなく、しかも上手に出來てゐるのでありまして、かういふところが子供の心と一致してゐるといつてよいと思ひます。

反歌は、長歌の中で歌ひ得なかつたことを取り出して歌ふといふものでありますが、この反歌は大體前の長歌に續いてゐます。この儘でわが主房前卿は御覽になるであらうよ。この大殿のめぐりの雪を踏んではならないよといふので「この廻の雪な踏みそね」は全く前の長歌の初句を繰り返してゐるのであります。「雪は踏むなよ、雪は踏むなよ」と兩手を擴げて大事に取り護つてゐるやうな姿までも想像出來る歌です。何處までもわらべ心に通ずるものがあります。

かういふ素朴な歌は、卷二十の防人の歌の中にも多く見られます。防人のことは既に御承知と思ひますが、「防人」は即ち「崎守」で、東國の若者が遠く筑紫の海岸を防備するために遣された人々であります。今で申せば沿岸防備隊或は國境守備隊といふところです。

○

父母も花にもがもや草枕旅は行くともささごて行かむ　佐野郡丈部黑當

これは遠江國佐野郡の防人で丈部黑當といふ人の作であります。「ささごて」は「ささげて」といふ言葉の訛で、兩手で差しあげてといふ意味であります。家に殘しておく兩親の身の上を案じて、もし自分の父も母も、あの道ばたに咲いてゐる花であつてくれゝばよいがな。さうすれば自分は筑紫への旅行中、兩手でさゝげて行かうものをといふ意味であります。「ささごてゆかむ」といふやうな言ひ方は、如何にも純情な子供の心で、千年の後、なほ深く動かされます。

この外、下野國の防人の津守宿彌小黑栖は「あも刀自も玉にもがもやいただきてみづらの中にあへまかまくも」と詠んでゐます。「あもとじ」は「おもとじ」の東國の訛で「おも」は「母」といふこと。朝鮮の「おむに」(母)と關係ありとされてゐます。「とじ」は一家の主婦といふことで、「おつかさんが玉であればよいのにな、もし玉であつたなら自分の頭に載いて角髮の中へあはせてまきつけようものをといふ意味で、これまた無邪氣な子供のやうな歌であります。「今日

よりはかへりみなくて大君の醜の御楯と出で立つ吾は」と歌ふ勇敢な東國男子はまた同時に子供のやうな純眞な無邪氣な心の持主であつたといふことをしつかりと御記憶ねがひたいのであります。

○

乎久佐壯丁と乎奥佐助丁と潮舟の竝べて見れば乎奥佐勝ちめり

これは卷十四にある東歌の一首で、作者は未詳でありますが、多分年頃の娘と思はれます。乎久佐といふ村と乎奥佐といふ村とに二人の若者があつたのでせう。それを乎久佐壯丁といひ、乎奥佐助丁といつたものと思はれます。壯丁に對して次丁を助丁といひます、「潮舟の」は枕詞で、竝べるといふことを引き出すための語であります。一首の意味は、乎久佐壯丁と乎奥佐助丁と竝べてみるとどうも乎奥佐が勝つやうな氣がするといふのであります。その結句の「乎奥佐勝ちめり」といふ「めり」が如何にもうら恥しい娘の胸中を吐露した言葉で面白いと思ひます。この恥しいといふ氣持はまた子供のやうないぢらしさを感ずるのであります。男も女も萬葉人はかういふやさしい心を持つてゐました。しかし以上の例は、いづれも都の文化に遠い東國の人人のことでありました。かういふ特殊な例だけで萬葉集の一般を律することも出來ないと思ひますので次は少し別の方面を見てみたいと思ひます。

○

ひさかたの天行く月を網にさしわが大君はきぬがさにせり

これは卷三、雜歌の部にある柿本人麿の作で、長皇子が獵路池の邊の野原に獵にお出でになつた時、お供をして詠んだ長歌の反歌であります。「天行く月を網にさし」の「網」は「綱」(つな)の誤ではないかといふ說がありますが、このまゝ網(あみ)でよいと思ひます。空にかくる月を網を張つてとらへるなどといふのは、全く想像的のことのやうでありますが、この作者は決して單なる譬喩としてではなく、實感で詠んでゐるのであります。一茶の俳句に「名月をとつてくれろと泣く子かな」といふのがあります。子供には空の高さといふことは考へられないものですから、美しい名月を取つてくれろと泣くといふので、如何にもよく兒童の心理を把握した作品であります。いま人麿の歌にもそれに似たところがあると思はれます。更にこの歌で面白いのは、その網を張つて把へた月を皇子はそのまゝ御自のきぬがさとし給ふといふのであります。

「きぬがさ」は、身分の高い方々が外出のときに、上から

さしかけるものであります。空の月そのものをきぬがさとするなどは、全くすばらしい話ではありませんか。

柿本人麿は萬葉集屈指の歌人であるばかりではなく、實にわが國第一の大作家であります。その大歌人のものゝ見方、考へ方が全くわらべ心に通じて變りがないといふことは、まことに意義が深いと思ひます。

○

大君は神にしませば天雲の雷の上にいほりせるかも

これは卷三のはじめにある歌で、持統天皇が雷の岳に行幸遊ばされたとき、供奉の人麿が詠んだものであります。天皇は現人神でましますから、かやうに天雲の雷の上に家居遊ばすことでありますよといふことで「雷」は地名としての雷岳であり、それと同時に天上の雲の中でとどろく雷神でもあるのであります。この言葉で、天皇に咫尺し奉るありがたくも恭き感激を如實に示してゐます。人麿の作より以前に「大君は神にしませば赤駒のはらばふ田舍を京師となしつ」とか「大君は神にしませば水鳥のすだく水沼を都となしつ」といふやうな作もありますが、しかし「天雲の雷の上にいほりせるかも」といふ深い感激と驚異の表現はまだないのであります。これは大作家としての人麿の伎倆の然らしめるところと考へられます。けれどもその人麿の伎倆といふのも、全く子供の純なものゝ見方考へ方と一致するものであると思ふのであります。

かうなつてきますと、わらべ心はさながら神にも通ずる心であります。人麿の雷岳供奉の作の如きは、全く日本人としての本然の姿を詠みあげたものでありまして、天皇に對し奉る純一な精神のあらはれであります。

かういふ純一な精神があつて、はじめて海犬養宿禰岡麿のやうに「御民われ生ける驗あり天地の榮ゆる時にあへらく念へば」といふ歌が詠めるのであります、岡麿の歌は、理窟ではありません。あゝだから、かうだからと理詰で考へてきた結論ではありません。わらべ心、子供心で御代をあがめた純眞な讃歎の聲であります。本當の心の底から湧き起つてきた純粹でまざりけのない精神であります。私は日本精神或は日本的感情といふものは、幼な兒の感情であると申したいと思ひます。

（つづく）

幼稚園の大詔奉戴日に就て

東京女子高等師範學校附屬幼稚園主事　倉橋惣三

本年一月から實施せられることになつた月々の大詔奉戴日を、幼稚園としては、どういふ風に行つたらいゝであらうか。その式次第は、一定して公示せられてゐるのでないが、定められてある實施要旨に基いて、その場所に適切に考慮實行せられてよいことゝ思はれる。その中心が、詔書の奉讀にあることは言ふまでもない。

さて幼稚園としては、國民學校の通りでも却つて幼兒に徹底し難いかも知れない。但し、國民學校の附設であつて國民學校といつしよに合せて行はれる時は、幼兒に分る分らんは別として、嚴肅な式に列することで、大に意義も效果もあることであらう。幼稚園が獨立に此の日を守る場合は、おのづから、幼稚園にふさわしい次第も考案せられてよろしいであらう。

一月八日の第一の大詔奉戴日に、東京女子高等師範學校附屬幼稚園では、次のやうな次第で行つた。本校としては大講堂で行はれ、幼稚園は從來の興亞奉公日にも別に行つてゐたから、今度からも幼稚園遊戲室で行つた。

大詔奉戴日次第

一　敬禮
一　宮城遙拜
一　國歌齊唱
一　詔書謹話（主事）
一　祈願（主事）

カミサマ
ニツポンノ　クニヲ　オマモリクダサイ
イクサヲ　シテヰマス　ニツポンノ　ヘイタイタチヲオマモリクダサイ
エウヒエンノ　ミンナデ　オネガヒマウシアゲマス。

一　祈念（一句ヅヽ、主事ガ先ヅ言ヒ幼兒一同ニテ言フ）

ニツポンハ　ツヨイ
コノイクサニ　キツト　カツ
ワタクシタチモ　キツト　ヨイコニ　ナリマス。

一　愛國行進曲合唱
一　敬禮

之れは、當日の朝の新聞に、大政翼贊會から示されてあつた次第に、大體從つた譯である。

一番中心の詔書奉讀を、幼兒によく分るやうに、詔書謹話にかへた。從つて、その後で、更に訓話といふ次第を置かないことにした。但し、詔書謹話をどうするかは、愼んで考究を要することである。本誌「幼兒の母」の中に、家庭に於ける謹話の仕方に就て參考として私見を載せて置いたが、素よりこういふことに限つた譯のものでもない。詔書の御趣旨を謹んで、幼兒の精神に傳へ得たいのである。

祈願は必勝祈願であることいふまでもない。本園では支那事變以來、毎月の興亞奉公日に、斯ういふ言葉で幼兒と共に祈願してゐたから、そのまゝをつゞけることゝしたのである。默禱といふ譯であるが、幼兒としては、その內容が短い時間の中へ、まとまつた形で盛りつくすことも むづかしからうと思つて、主事が一同の心を代表して、この言葉を以て祈願することにした。此の間、幼兒一同は謹んで稽首してゐるのである。こゝにお呼びかけ申す「カミサマ」は、本園としては、天照皇太神宮樣と、明治神宮樣とである。

祈念とは幼兒達が自分の心に深く念じ、强く誓ふことであると思ふ。そこで、幼兒達も、きつと斯う念じ、斯う誓つてゐるに相違ないと思はれるところを、つとめて簡潔な又、出來るだけ强い言葉にあらはして、この言葉にした。之れは三段に分れてゐる。そこで、主事が先づ第一段をはつきりと言ふ。それにつゞいて、幼兒達が揃つて、强い聲でいふ。次に第二段、次に第三段と、同樣にする。一月八日には、始めてのことであり、幼兒達にとつては突然の仕方であつたから、いつもの復誦の形になつたが、實は、この言葉は、幼兒達の各自の心の中から出る言葉である。一月八日の最初から、そういふ感じは、しつかりと幼兒達の嚴肅な顏にうかゞはれた。

之れで、大政翼贊會で示してゐる次第は一通り濟んだ譯であるが、八日の正午、情報局と大政翼贊會と共同主催で日本放送協會から放送せられた國民大合唱のこゝろを採つて、みんなで「愛國行進曲」を、大聲に合唱することにした。そして最後の敬禮で結んだが、此の間、初めの敬禮から結びの敬禮まで、幼兒一同立つてゐるのである。

以上は、申すまでもなく、一定の型でも何んでもない。文部省直轄の幼稚園といふやうなことでなく、たゞ一例として、御參考になればいゝと思ふ。御參考などゝいふよりも實は、私のこころでは斯うしますといふことだけを、ただそのまゝに書いたゞけである。形はどうであらうとも、此の日の大切なる精神は、是非幼稚園でも、嚴肅に、力强く、職員幼兒一同で感銘と感激を新たに盛り上らせなければな

らない。

此の日、國旗掲揚は申すまでもないが、一日を式で終るとか、格別の行事日にするとかいふことではない。實施要項として職域奉公といふ項がある通り、いつもの生活のまで守るのが、此の日の本旨である。戰線では此の日も一刻一秒の裕餘も、間隙もなく、戰ひつゞけられてゐるのである。幼稚園でも常の保育を充實するのである。

尙ほ序に添へて申したいことは、此の日は必ずしも學校とか幼稚園だけのことでなく、國民生活の日、家庭生活の日であるから、家庭に於てその心を充分徹底されるやう、幼兒の家庭に注意するのも、幼稚園の任務であらう。殊に、二月と三月は、八日が日曜日になつてゐる。幼稚園では此奉戴式が行はれない。家庭で、しつかり行つて貰はなければならない。

保育實習科生徒募集

（官報拔萃）

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス

其要項左ノ如シ

昭和十七年一月　　東京女子高等師範學校

一、募集人員　凡ソ二十四名

二、出願期限　二月一日ヨリ三月十日マデ

三、學　資　學資ハ總テ自費トシ授業料年額金五十五圓ヲ徵集ス

四、選拔試驗　入學志願者ニ對シテ學科試驗、身體檢査、人物考査ヲ行フ

1、學科試驗　國語（解釋、作文）、理科（物理、電氣ニ關スル事項ヲ除ク）、圖画（自在畫）、音樂（唱歌）

2、期日　本年三月十七、十八ノ二日間

3、場所　東京女子高等師範學校

（附記）出願ノ手續其他詳細ノ事項ハ之ヲ記載セル印刷物ヲ用意セルニ付其送付ヲ希望スル者ハ參錢郵券ヲ貼附シ宛名ヲ記載セル封筒ヲ添ヘ本校教務課ニ請求スベシ

ふくらみ雛

及川ふみ

戰線のお父樣方から軍務のお忙しい中をわざ〳〵お便りいたゞいて、いつも感じる事は、內地のお子さんたちが變りなく元氣に樂しく遊んでゐる樣子を大層およろこびであること同時に、又これが何よりの御安心の御樣子でもあります。

こんなことからしてもこの緊張したうちにも三月三日の節句などは、私共の出來るだけの心づかひで、時局柄手許にある材料で何とか工夫して幼兒たちを喜ばせるお雛祭りの行事をしたいものであります。

模造紙で作つた折紙のお雛樣、新聞粘土で作つたお雛樣、古はがきのお雛樣など手輕に出來る數々のおひな樣が思ひ浮ばれます。

手廻しよく準備をすればまだ〳〵材料に使へるものがいろ〳〵あります。人手の足りない今日この頃、家庭行事の一つの手傳ひの氣持をも充分にもつて幼稚園ではこの三月三日の節句の樂しさを幼兒たちに十二分に味はせたいものであります。

こゝ十數年來、年々に新らしく作つて見たお雛樣の數も相當に多いのであります。出來るだけ容易に作れるもの、材料に費用のあまりかゝらないもの、おもむきのあるもの、などゝ作るときにいろ〳〵の條件を考へながら工夫をして見たのでありますが、新らしくお考へになる手作りの雛の御參考に二三出來上り圖を掲げておきました。

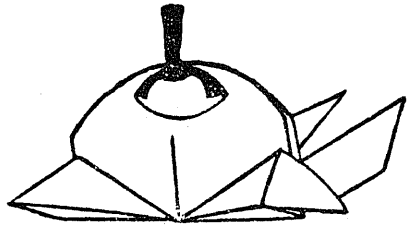
今年は古はがきで「ふくらみ雛」を作つて見ることに致しました。

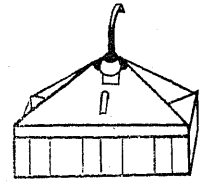
出來上り圖で大體の作り方も御了解になる事と思ひますが、

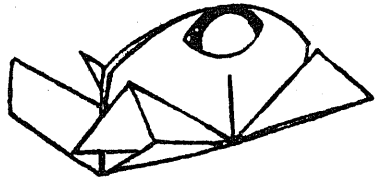
直徑九センチ、と二センチ半の二重圓を畫き、九センチの外圓の前後に幅二センチ、長さ二センチのサシコミシロをつけておく。二センチ半の內圓は、後の半圓とおり目幅二ミリ、つまり後の半圓とさらにその左右二ミリ多く切りぬく。切りぬいた後の半圓は二ミリ幅に一段折つて立てゝ顏にする。切り落した餘分の紙から頭の飾りをとることにする。

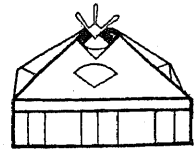
臺は端書全部のうち三方を二センチ幅にさつて高さにする。臺の前後一センチのところに二ケ所中央二センチ幅のサシコミを入れるための切り目をつけておく。

臺の上は綠色に、臺の周圍は赤、黃、綠の三色にぬりわけておく。

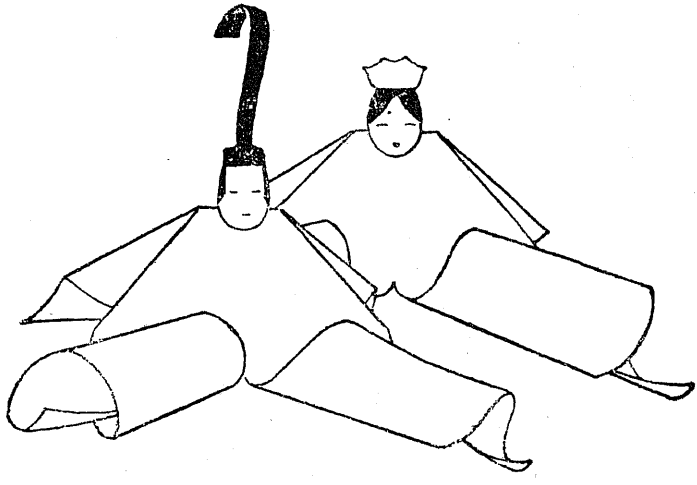


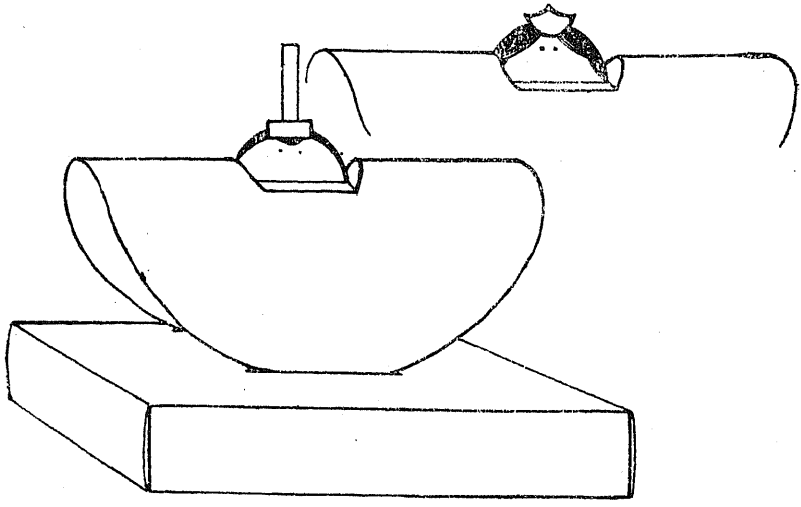






雛には適當の色をぬり、或は模樣をかゝせるのもよいのであるが、又千代紙を古はがきの上にはると一段と美しいお雛樣を作りあげる事が出來る。





保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十七年三月、左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て、斯界の爲熱心にその職に從事し度い希望に燃えてゐます。

氏名	出身校	生年月日
赤松 歌子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正十二年六月二日
非染 貞美	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正十二年三月二十九日
石原 貞子	爺山公立高等女學校	大正十三年三月十七日
今井 幹子	東京 雙葉高等女學校	大正十二年九月七日
上澤 多惠子	東京府立第十高等女學校	大正十二年九月十三日
大島 多喜子	石川縣立金澤第二高等女學校	大正十三年一月二十二日
太田 峰子	東京府立第三高等女學校	大正十三年一月二十三日
片岡 靈恵	山形縣立第一高等女學校	大正十二年四月三十日
河村 節	東京府立第八高等女學校	大正十二年七月二十日
桑原 萬里子	東京府立第十高等女學校	大正十三年一月一日
酒井 尙子	名古屋市立第一高等女學校	大正十二年二月二十六日
志治 梅子	山梨縣立甲府高等女學校	大正十四年一月十四日
柴田 俊子	愛知縣立第二高等女學校	大正十二年四月六日
進藤 光子	東京府立第五高等女學校	大正十三年三月四日
高橋 紀子	東京 白百合高等女學校	大正十三年二月十一日
代島 かや	北海道廳立函館高等女學校	大正十三年十月十六日
中井 富佐子	東京 川村女學院	大正十一年九月九日
中島 美子	名古屋市立第三高等女學校	大正十三年二月二十二日
中村 滿智子	千葉縣立佐原高等女學校	大正十三年十月六日
遠沼 國子	東京府立第六高等女學校	大正十一年九月二十九日
藤、山 蓮子	東京府立第十高等女學校	大正十三年一月二十三日
宮島 スミエ	群馬縣立前橋高等女學校	大正十三年八月十六日
宮本 淑子	東京府立第三高等女學校	大正十二年五月十二日
山口 光子	山形縣立第一高等女學校	大正十一年八月二十二日

幼稚園託兒所視察記（一）

文部省教育調査部調査課　多田鐵雄

文部省教育調査部に於ては數年前から幼稚園及び託兒所、即ち就學前幼兒保育施設調査の必要を痛感し、昨年來調査課長を中心に書面調査の仕事を進めて來たが、一應の整理も濟み、近くその結果を發表し得る段取りまで漕ぎ付けたのである。これは然し忌憚なく云へば、幼兒保育の問題は從來放置されてゐた事柄なので、突然その報告を依頼された各府縣廳も短日月の間に報告を作り上げる材料を集めるのに甚だ苦澁したらしい樣子で、二三報告を受け得ない條項もあつたやうな次第で、かうした報告を基にしてまとめ上げたものが極めて不完全なものでしか有り得なかつたことは當然である。

それはそれとして兎も角も一應調査がまとまつたので、先達て關西と東北とに實情視察に出向いたのであつたが、そこで氣付いた點を暫くこゝで述べさせて頂きたいと思ふ。

先づ面白かつたと云つては甚だ失禮千萬であるが、或る縣へ出向いた處「幼稚園の調査でおいでになつたそうですが、一體どんなことをお調べになるのでせうか、若し園舍、設備の點で御座いましたら建築課の方へ、又教科內容の點で御座いましたら學務課の方へお出で下さい」と云ふ言葉を受けたのであつた。園舍を考へてくれたことも御苦勞千萬だつたし、教科內容と云ふのも幼稚園保育を少しでもかぢつてゐる者に取つては可笑しな言葉である。けれどもこれは決してこの縣だけが迂闊千萬だつたのでなく、社會一般が、文部省一般が、府縣學務課一般が今まで迂闊千萬だつたのである。ともかく「幼稚園、託兒所調査の爲」なる出張目的で文部省が地方へ省員を派遣したのは恐らく今度が初めてではないかと思はれるので、その意味では劃期的であつたとも云へるし、遲蒔ながらも當然の第一步を踏み出したとも云へるであらう。

初めに岡山市を見た。岡山市は永年に亙り市當局が凡ての幼兒を幼稚園に收容する建前を取つて來た點に異色ある地であることは、既に知られてゐることであるが、現在はその方針も略〻貫徹されて各學區の國民學校には之と照應

させて必ず幼稚園が設置されてゐる。從つて市内の國民學校新入兒童中七割乃至八割が幼稚園保育を經たものであつて、かゝる狀況は岡山市が大いに誇つてよい點であらう。望蜀の言を述べれば、現在の幼稚園は殆んど保育料で賄つてゐるやうであるから、今後は市財政が一層援助を强化することである。そうなれば保育料ももつと低額で足りる故、現在負擔を重く感じてゐる家庭をも救へるであらうし、今のところ一ヶ年保育が壓倒的多數であるが、二年保育三年保育の幼兒をも收容し得るに至らうから、教育的には元より、幼兒保護の方面での課題も果し得ることにならう。羨ましかつたのは市内某幼稚園が山羊と雞を相當數飼養し、之に幼兒を手傳はせると共に、之を幼兒に對する給乳、給食に資してゐることであつた。これは土地の條件が左右することで、望んでも叶はぬ場合も多い故羨ましいのである。考へさせられたことは保育室に教卓乃至教壇が不用か否かと云ふ問題である。成程、幼兒の自發的活動を主とすべく、その點では保姆は助手であるべきであらう、又、教卓の存在は保姆と幼兒との間に越し難い溝をつくるであらう。更に保姆は幼兒の中へ入つてゐて、隨時或は此處、或は彼處に座を占めて幼兒をリードすべきであらう。然し保姆は飽くまで幼兒に取つて權威でもあらねばならぬ。そして幼兒の自發的活動が絶對的自由であつてならない以上、五秒でも十秒でも權威に服すべき瞬間が與へられねばならぬと思ふ。その爲には權威が位置する場合には一定の場所であることが自然でもあり、安定感も與へる。その點から云へば、部屋に床の間がある如く、保育室に教卓が欲しいのである。要はその用ひ方であると思ふ。

岡山の某託兒所は託兒所經營そのものよりもその八面六臂な社會事業家的活動が注目を索いた。即ち保健相談診療所を設けてその醫師を託兒所幼兒に對して動員し、一般託兒と共に保育組合を設置してその幼兒をも受託する他、トラホーム檢診、學習補導、職業指導、家事裁縫講習、母の會等を營んで居り、種々苦心をして方々から資金を調達して來てゐるのである。このことを紹介した意味は幼稚園も必ずしもかくあれと云ふのではないが、その積極性、企劃性には學ぶべきであらうと考へたのである。そしてかゝる場合には男性の園長が親ら園務に從事することき概して良く行くのであるまいか。神戸の望月クニ先生は男性の保姆？必要論者であるが、又奈良女高師幼稚園主事小川氏も先達て私に「自分は男の保姆？の要を或る教育學會で述べたが君の意見は」と聞かれたが、かゝる企劃性に關しては男性が一日の長があることは衆目の齊しく認めるところであり、且つ私は家に父母のある如く、幼稚園にも男性による父としての保姆、女性による母としての保姆を望むものであ

る。一部の女性のみの幼稚園に於ては今度の視察に於ても、何か强さ、勇ましさ、威嚴的なものが缺けて居るやうに見受けられた。

神戸市に於ては幼稚園當事者が一致協力して保育の振興に努力せられてゐることが感ぜられた。古事記の研究なども有意義なその所產である。神戸市に於て大體に揃つてゐる幾つかの幼稚園を見て思はれたことは、かゝる施設が行渡つて凡ての就學前幼兒を收容し得るやうにしたいし、又しなければならぬと云ふことであつた。例へば幼兒の保健に關し、ツベルクリン反應の處置を取ることが必ずしも缺くべからざることでないにしても、市立幼稚園の幼兒のみが市の經費によつて之を受け、他は之に均霑され得ぬ如きは不合理である。よしんば私立幼稚園は私の費用で之を爲し、託兒所は社會課の補助の下に之を行ふとも、爾余の幼兒は何人がその配慮をなすであらうか。

大阪市は公立の獨立幼稚園に專任の女性園長を置いたものが十四を算するのが特色である。市學務課の話では、それによつて女性が責任を感じ甚だうまく行くと云ふ話であつた。これはさりもなほさず公立幼稚園の多くが國民學校長を園長に戴くところが多く、而もかゝる園長は學校の仕事に忙がしくて、幼稚園に本腰を入れることの少いことに起因するものであるが、女性であれ男性であれ、專心保育に打込む園長を要することは言を俟たぬ、問題は女性が適任か否かと云ふことであるが今はそれに觸れぬ。

託兒所を見て感じたのは、これは東北をも通じてのことであるが、同じ細民街にある施設でもその經營主體の相違によつて、その設備と云ひ、保育の實際と云ひ、雲泥の差のあるものゝ存在することである。殊に託兒所として遺憾だつたのは、部屋の美醜、構造の完全不完全は別として、掃除が行屆かず、埃だらけである上に、便所などの不潔なものゝあつたことである。かうした第一要件が備はらないでは他は推して知るべしであらう。元來保姆が少しでもほんとに幼兒を思ふ心があれば、便所などは率先して自分達が淸潔に掃除せずに居られなくなるもので、とても掃除人等にまかせて置けるはづのものでない。かと思ふと名古屋の衆善館の如く充分なる資金で殆んど理想に近い設備を持つてゐる託兒所もある。然しかうした差異は一般の託兒所についても、又幼稚園、殊に私立の幼稚園についても當てはまることで、それだけに一口に託兒所と云ひ、幼稚園と云ふも、地獄から極樂まであると云つても過言ではあるまい。それ故に私は幼稚園の缺くべからざるを確信してゐながら、人から「幼稚園へ入れやうと思ふが」と訊ねられると、直ぐ「勿論」と答へることは出來ず、「何處の何と云ふ幼稚園へです」と聞いて見ないわけに行かぬのである。されば將來

保育施設の普遍化の問題には、施設の質的向上の問題をも併せ考へねばならぬことがあらためて認識されるわけであつた。

京都に於ては私立平安幼稚園で父君の仕事を繼いだ岩井氏の熱心且つ活潑な努力が注目を索いたが、たゞ實習生(保姆養成所の)の過多が保育室に落付きを與へて居ないことが氣の毒に感じた。

更に名古屋で若干廻つたのであるが、要するに以上は大體大都市の幼稚園、託兒所を見たのであり、東京その他の大都市とも一應共通な狀態を示してゐた。

幼稚園及び託兒所を通じて痛感されたことは施設所在地の適不適である。それは環境、地形と云ふ意味でなく地域的關係に於てゞある。即ち少くとも大都市に於ては設立者の自由意志にまかせず、大所高所から地域的配慮を加へて所在地を選定、統制すべきであると思ふ。例へば極く近くに公立と私立の幼稚園が竝存してゐたり、ひどいのは二つの私立が相競ひ竝んでゐたりする。託兒所にしても然りで、例へば授産場の幼兒を對象として、その授産場の近隣に施設してあるところは、たとへ不充分の點が多々あつても重要な點でその役割を完全に果してゐる。又託兒所の一つの予盾は先づ要救貧の幼兒を對象として設置されてゐても、その地域の一般生活向上によつて、それがその本來の使命を果せなくなることが往々あることである。かゝることも地域的均衡を一層困難ならしめてゐるのである。

次に大都市に於ける幼稚園入園志望者激增の事實は看過し得ぬ事柄である。殊に關西二都市の如きは公立は大體十割內外、私立も平均五割以上、入園を拒絕してゐる有樣である。それと共に定員最大限約二百人なる現行令の規定を超過してゐるものがまゝ生じて來てゐる。これは規定違反なりとして片付ける問題でなく、一幼稚園が定員何人位までは保育可能かと云ふ問題、入園志望者過多に對する方策が眞劍に考へられるべきである。

東北は今回は秋田、岩手、宮城、福島と見て來たのであるが、概括して云へば公立幼稚園が極く少く、私立の內、クリスト教主義のものが多いと云ふこと、更に託兒所が積極的に活動してゐるのに對し、幼稚園が無氣力、且つ消極的に近いことである。それは勿論、前に述べた中央の從來の無關心な態度に起因してゐる點も多いであらう。例へば福島縣では未だに女子師範に附屬幼稚園を設置することさへ實現出來ず、又一般に幼稚園は增加する風は見えなく、託兒所のみがどし〳〵增設されてゐる。クリスト教主義幼稚園のことに關しては後に述べようと思ふが、例へば秋田縣の如く縣の方針が幼稚園保育も國民學校精神に副はせることを强調してゐるところではクリスト教主義幼稚園が在

來のやゝもすれば傳道を主にする考へ方を全く棄てない限り、自ら積極的な歩みはなし得ぬことであらう。

東北の託兒所はその多くが國民學校に付設せられ、或は國民學校教員をして援助せしめてゐる――之は必ずしも東北地方に限つたことでなく農村では何處も同樣であらうが――が、このことは國民學校と就學前幼兒保育との自然的關聯性を實證してゐると共に、國民學校教員に對して就學前保育への關心を次第に呼び起しつゝある點は極めて意義あることゝ云へる。農村の文化は國民學校が中心であり、青年學校教育、就學前幼兒保育、兒童健康相談、母親再教育等も國民學校を中心として行使さるべきものであらう。一般に都市に比して農村が置き去られ勝ちで、常に二次的に視野の中へ入つて來るに過ぎぬ傾向を思ふとき、私は、我が國の幼兒保育を考へる場合、農村の問題をはつきりと見つめて行かねばならぬことを泌々思つたことである。農村の季節託兒所は方向として常設託兒所を目指して居り、常設託兒所は、その名の如何を問はず、正しい就學前保育施設への方向を目指してゐると云へる。東北でその典型を幾つか見た。岩手縣の岩手郡中野村農村託兒所が然り、宮城縣牡鹿郡蛇田村の託兒所が然りである。蛇田村のは季節託兒所が常託になつたものであるが、その理由が永年に亙り、託兒所出身と然らざるもの兩者の學童を調査し、身體的にも精神的にも託兒所出身兒童が優れてゐたことにより、幼兒保育の重要性を認めたが故にと云ふのであつて、縣社會課が單に救貧、保護事業的に幼兒保育を見る誤謬を指摘した。右の託兒所長であり社會事業家である蛇田村村長の識見に私は敬意を表した次第である。

保姆は風の先生

「子どもは風の子」といふなら、「保姆は風の先生」です。先生が戸外がおきらひでは、折角の風の子が、風の子になれない。

組が幾つかある場合、大別して二種類になる。一つはお庭によく出る組、一つはお部屋にばかりゐる組。それは一年中のことですが冬になると、その特徴が殊にはつきりして來ます。そして、それが、受け持の保姆さんの特徴によることはいふまでもありません。

外に出ようか出まいか。外へ出るべきかどうか。そんなことを保育理論ではと考へてゐたら、外へ出るのはおつくう千萬、その中に午後になる。日かげになる。そうでなく、外へ出ることの好きな先生だけが、さつさと外へ出る。子どもは、待つてゐましたとばかり、外へ出る。

「風の先生」「風の子」をつくる。

（くらはし）

教育者としての保姆（一）

——文部時報第七百三十七號より轉載——

東京女子高等師範學校教授　倉橋惣三

一、「保育」と「教育」

これは「文部時報」編纂部からの課題である。なんと嬉しい題であらう。大に氣乘りして、ふだんから考へてゐることころを書きならべる。

なぜ此の題を嬉しいといふか。保姆を教育者として見ることの極めて稀薄な人々が多かつたりするからである。甚しきは、かういふことに、とんと無關心な人さへ、社會に多かつたりするからである。それも、その人達の立場が遠い場合は別として、幼兒保育の必要を論じ、保姆の任務を說いたりする立場にありながら、保姆の教育者たることを、殆んど見落してゐる人々があつたりするからである。それらに對して、此の課題自身が既に一提言をなしてゐるといへる。

保姆はたしかに教育者である。しかし、國民學校の訓導に、教育者としての訓導といつたいひ方をすることはない。それに比し、同じく教育者である保姆に、特に教育者としてのといふ言葉が用ひられたりするのはなぜであらうか。それは、訓導の場合その仕事がはつきり教育といはれて居り、保姆の場合には、保育といはれて居ることに先づ原因がある。保姆とは先づ幼兒の保育者である。その保育者がごういふ意味で教育者であるかといふのが、此の課題の中心になる。

幼稚園令は幼稚園の目的をかう言ひあらはしてゐる。「幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス」と。こんなことを今更引用するまでもないが、幼兒を保育して、家庭教育を補ふところに、一應注意を惹きたいのである。幼兒を教育してと、頭から言つてよさゝうなのを、特に保育といつてある點に就てゞある。これにはいろ〳〵の意味が汲みとられ得るであらうが、玆では先づ次のやうな點を

取り上げたい。幼兒を保育しては、幼兒を教育してゆく働きざまを言つてゐる言葉である。保育することによつて所期せられてゐる內容は、次に示してある「心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ」である。卽ち此の效果を得るために、保育といふ方法樣態を以てするのである。而して、幼兒の心身を健全に發達せしめることと、善良なる性情を涵養することは、いふまでもなく教育である。從つて、この幼稚園令の言葉を換言要約すれば、保育といふ幼兒に適正なしかたによつて、幼兒の教育效果を擧げ、それによつて、家庭教育を補へといふことである。その保育するといふことはどういふことか。玆に講義めいた詳說はいらぬが、假りに教育するといふ言葉を一方に置いて言つてみれば、教育するといふ方には、目的を强く押しつけたり、目的へ近く引きよせたりする趣きがある。それに比して、保育するといふ時は、こつちの目的が、さうあらはに主になつてゆかず、どこまでも、先方すなはち幼兒の生活の方を主にして、それについてゆくのである。勿論、先方を主にして、先方へ隨從してゆくだけではない。こつちはしつかりした目的內容をもつてゐるが、その働きざまに於て、どこまでも先方の生活を主とし、それに卽觸し、それを盛り上がらせることを先きにして、その間にこつちの目的內容を實現させてゆかうとするのである。但し、かういふ心構へは教育のどこにもありはするもので、殊に國民學校初學年の場合など、大に此の心構へが必要とされてゐる。小學校時代の初學年でも新教育論者はさう考へてゐたが、國民學校になつては、その心持ちが、原則的に强調せられてゐる。その點で、幼稚園の保育法と國民學校初學年の教育法とが、甚だ近似して來たといはれたりもするが、それは兎に角として、幼稚園はどこまでも保育法の特色に立つのである。

ところで、幼兒の生活を主にし、それに卽觸し、それを盛り上がらせるといふ、その生活といふに二方面がある。一つは、謂はゞ心理的方面で、普通に幼兒の生活々動といふ方である。たとへば、幼兒の遊戲生活の如きそれである。そこで、保育法に於ては、幼兒の遊戲生活を主とし、それに卽觸し、それを盛り上がらせることを、先決の基本態度としてゐる。但したゞ自由に遊ばせて置けばいゝといふのでは決してない。それでは、保育してゐるのでもなんでもない。が併し、教育法といふ時、さう〳〵遊戲生活に就いてのみゆけず、課業と遊戲との對立が設けられたりするのに較べて、保育法の方は、幼兒の遊戲生活で、常にぐつと近く添つて居る。しかも、幼兒の生活といふ時の意味はこの方面に止まらない。心理的といつたのに對して、生理的といふのも語が充分に當らないが、生活々動よりも、もつ

と極く普通一般の意味での身邊日常の生活がある。腹がすく。睡くなる。これも生活である。よごれた手を洗はせる。ほころびた着物を縫つてやる。傷の手當をしてやる。保健上の實際の世話を加へてやる。これも亦生活に卽觸してゆくことである。一般の幼稚園保育では、前の方の意味の生活も亦、保育の主要分である。實は、この方こそ保育の第一義といつていゝ位であらう。兎に角、かうした二つの方面を含めて、幼兒の生活そのものを主とし、それに卽觸し、それを盛り上がらせてゆく働きざまで教育效果を實現してゆくところに、保育法の特色があるのである。從つて、保育者卽ち保姆の任務も、明らかにこゝにある。そこで、その働きざまを表から見れば、或は、教育者らしいところが顯著にあらはれてゐないかも知れない。少くも、教育の爲の教育法を用ゐて居る教師に比して、聊か異つて見えるであらう。そこに、その保育者が、さういふ働きざまをとりながら、實は幼兒の教育を意圖してゐる、れつきとした教育者であるといふ闡明も更めて必要になつたりするのである。それは宛かも、明け暮れ、我が子の身邊日常の生活の世話と、我が子の生活々動の相手とに沒頭し、その方面の忙しさに終始してゐる母を、更めて「教育者としての母」といつたりするのと同じである。

二、就學前國民教育者

保姆は幼兒に接する意圖に於て教育者である。さてどういふ教育を意圖してゐるか。幼稚園令の言葉としては、身心の健全なる發達といひ、善良な性情の涵養といひ、たゞそれだけでは、人間的一般の教育であり、個人主義的ともいへるものである。殊に、家庭教育を補ふを以て目的とすとあるのは、ことによつたら、往々にしてある家庭的利己主義の顰を脫してゐないかも測られない。少くも、その教育意圖の標識の表示性に、國民學校令第一條の如き鮮明と的確とがない。しかし、今日の全國教育の嚴たる通念に於て、一切の教育標識が國民的であることに聊かの差別はない。幼稚園令の言葉が古いためか、何分にも對象たる幼兒の生活の淡さの爲か、國民學校令の如くに强くは言つてないけれども、心身を健全に發達せしめるも、善良なる性情を涵養するも、一つに皇國の道に則りて行はれ、國民錬成に向つて意圖せられてゐることに別ありやうはない。幼稚園令第一條を改訂してもいゝ。速に改訂すべしとの論も現にある。しかも假りに此のまゝでも、國民の就學前教育として、それが國民教育であることを誰れが忘れよう。學齡中が國民學校であると共に學齡前は國民幼稚園である。（文部時報第七〇六號第七〇七號所載拙稿「國民學校と國民幼稚園」參照）從つて、幼稚園保姆は、たゞに教育者であるといふ普遍概念

の外に、國民教育者である。この點は、此の小篇に於て特に强調したい。

國民錬成の意味は、必ずしも國民科的方面のみのことでないのは、國民學校令の、靜かに又明かに示してゐることころである。すなはち、心身を健全に發達せしめといふ、謂はゞ體錬科的の方面も、幼稚園保育項目内の、謂はゞ理數科的であつたり、藝能科的であつたりする方面も、皆之れ國民錬成に統合せられる貴重なる要素であることは言ふまでもない。しかも、謂はゞ國民科的の方面としても、善良なる性情を涵養するといふ、その善良とは、皇國の道に則るものでなくてなんであらう。殊に、國民學校令施行規則教則の總則の一、二、三項に擧げられてゐる國民學校教育の本旨は、皆幼稚園保育者の教育的念願でないものはない。勿論三項の内容を知識的に教へてゆくことは、幼稚園の可能外である。しかし、教則も之れを單に知識的理解のことせず、曰く「皇國ノ道ノ修錬」といひ、「國體ニ對スル信念」といひ、「知識技能ノ體得」といひ、「心身ノ育成」といひ「國民タルノ資質ノ啓培」といつてゐる。これ等は一面知識的學習以上でありとも見られるが、超知識性といふ點に於て、理念教育以前にも或る可能を約束するものである。そこで保姆が、その保育的はたらきの間に於て、常に自らの生活を皇國の道に則らせ、幼兒の性情を皇國の道に則らせ、機會ある毎に國民教育の本旨の適正なる（幼兒として）實現を工夫するところに、就學前日本人の國民教育が、保姆の手によつて行はれてゆくのである。

元來、就學前教育の必要は、後に錬成せられんとする兒童の心性が、幼時に於て方角づけられ、正しく躾けられてゐることの、必須缺くべからざる重要さに基くものである。而して、その方向と躾けとの内容は、人間性の全面に亙ることは勿論であるが、皇國の兒童の心性として絶對的に大切なもの日本的なるものを、その主内容とすることは論を俟たない。保姆はそこを擔任してゐる。その、勞多くして效果の顯著でない教育期に於て、根の根の如きところを培ふことに孜々としてゐる。而して、根が一番大切なところであることを知らぬものはあるまい。若しさういふ人があつたら、餘りにも性急な效果主義者か、淡薄なる結果主義者である。少くも、眞に自然の理法を知るものではない。教育の理法を知るものでもない。そこで更めて玆に斷言し得ることは、國民學校による國民教育意識の新たなる昂揚は、溯つて就學前の國民教育的留意を今更に深くし、從つて、その任に當る者、すなはち保姆を、教育者として更めて重く認識せしめ來つたことである。

玆で尙ほもう一つ考へて置きたいことがある。幼稚園令に言ふところの、家庭教育を補ふといふ點である。この意

味は頗る深い。此の一句に、就學前教育の種々の本質的問題が解拵せられる。その一つは、幼兒期教育の第一主體が家庭に置かれてあることである。その意味に於て、幼稚園は補助的機關である。しかも、何が故に補助を必要とするか。この點に補助が要求せられるか。これは充分明かにされてゐなければならぬが、この問題をその全面に亙つて論究するのは此の小篇の企て以外である。茲には、就學前國民教育に就いて、家庭教育を補ふといふ點が問題である。一體、家庭教育は、殊に日本の家庭教育は、その教育的中核が國民教育にある。國と離れない家といふものがする教育が、さうであることは、當然であり又我が國の特色である。教育者としての母といふ言葉も、この意味では、國民教育者としての母といふべき位である。そこで、家庭の國民教育的效果を、保姆が補ふといふことになつて來るが、その意味果して如何んといふことである。見方は二つに分れる。第一には、家庭が國民教育主體としての效果を充分發輝し得ない時に補助の必要があるといふ實際的の見方である。而して、かういふ場合が世に多い。第二には、家庭教育といふものそのものに、それだけでは國民教育性を完具しないところがある。從つて、實際の場合といふよりも、原則論として、就學前國民教育施設の補助を俟つことが必須であるといふ見方である。

これに就て、第一の見方は、どこまでも實際的のことであつて、それだけの話でもある。第二の見方に在つては、家庭教育の本質に觸れてゐることにもなり、子どもの國民教育は、家庭以外の國民教育施設によつてのみ出來るといふ斷定をすることにもなり、考へ方によつては、我が國の家庭の國民教育性を信頼しないが如くにも聞える。しかし、就學後に於て、全兒童を國民學校に於て國民に錬成するといふ義務教育の立て前から見て、別に不思議もないことである。更めて論ずるまでもなく、國民錬成といふことは、個性的完成とは別なる全體性の完成を要諦とするものである。その全體性の錬成は、方法としても、個々人的教育主體に一任する以外に、全體性的教育主體の協力にすることを有效とするのである。而して、保姆が個々人的教育主體でなく、國家の全體性的教育主體であることはいふまでもない。宛も、國民學校訓導がさうであると、その內面的本質に於ては同一である。こゝに、家庭教育を補ふといふも、單に偶然の缺陷を補ふといふ場合の外に、かうした本質的な任務が考へられることになる。

但し一應注意して置く必要は、斯ういふ見方の成立によつて、家庭教育の國民教育的任務に聊かの輕減を加へてゐるものでないことである。國民錬成は、全體性的教育主體の力に俟つこと必要であるが、その錬成の基底的職能を受

持つ個々家庭教育の必須も亦、一點の否定を許されない。現に、國民學校ほどの强力なる全體性的教育主體が、家庭との教育的協力を强調してゐるのである。決して、あらゆる意味に於て、現に實に家庭の子であり、母の手にある幼兒の場合、假りにも家庭教育から切り離して、何んの眞の教育が出來得よう。すなはち全體性的教育主體を國民教育の爲に必須とする論は、そのまゝに家庭教育輕視を少しでも意味するものではない。それどころか、我が國の教育の根本本義として、家庭教育こそ一切の基底たるもので、全體性的教育主體の力が充實せられると共に、それに併行して、個々家庭の教育力の發輝が進展させられなければならない。そこで、家庭教育を補ふといふことの意義は、國民教育としての保姆が國民教育者としての母に、その特質を以て協力するといふことになる。

さて問題をもとへ復へして、保姆が教育者であり、國民教育者であるといふことは、幼稚園の目的がさうであることの再說にほかならぬではないかといはれるかも知れぬ。保姆とは幼稚園に於て保育に從事するものであるから、それに相違ない。しかも、學校の目的と訓導の任務とが一致せる以上に、幼兒教育では、保姆その人の影響が大きいのである。幼稚園にゐるから保姆であるといふよりも、保姆がゐるから幼稚園だといひたい位である。かういふと、切角の全體性的教育主體といふことが、保姆個人に歸趣せられて仕舞ふやうであるが、素より保姆は幼稚園の一員としてのみその教育力を完全に發輝し得るのである。たゞ、幼兒の方から見れば、兒童が訓導に教育せられてゐる以上に保姆によつてこまやかに教育せられてゐるといはれ得る。此の點は、幼稚園が全體性的教育の機關でありながら、學校に比してその機關性が少なく、保姆本位的な特質を生じ來る所以である。斯くて、保姆も教育を受けもつといふ以上に、教育者としてのその人自身の持ち前こそ、社會にも、保姆その人にも、しつかり認識して貰ひたい點である。

（つゞく）

本誌は、來る三月號より、豫告申上げて置きました通り、講義錄の態を以つて皆樣に御目にかゝることになります。（編輯部）

リヅム遊びについて

みごり會音樂研究部

弘田龍太郎

リヅム遊びについてはAK、BK共に非常な努力をはらつて下さつてゐることは我々幼兒の音樂教育研究に携つてゐる者にとつて誠に有難いことであると思ふ。そこで實際に幼兒の保育にあたつてゐる者達のこのリズム遊びの取扱ひについていろ〳〵研究した結果をこれからだん〴〵と報告することにする。

勿論これらはいづれも、一案であつてまだ他に無數の良い案があるかと思ふが、この發表が刺戟となつて遙かに優れた案を御提示下さらば誠にありがたいことだと思ふ。幼兒の音樂教育のために、この幼兒教育を通してどし〴〵御發表下さるやうお願ひする。（一六、一一、一〇）

——◇——

（童話を用ひて）

或るお池の中で蛙の卵からお玉杓子の赤ちやんが生れました。お母さんは大きな蛙さんです。お玉杓子は生れるこ直ぐに、お池の中をユラ〳〵こ泳ぎ廻つて、直きにお池の中の金魚の金子さんや目高のメヽ子さんや、それから鮒のフナ男さんなんかこお友達になりました。その中にお玉杓子は段々こ大きくなつて、お母さんこ同じ樣な形の蛙の子になりました。

まだ〴〵小さな青蛙ですけれごお母さん蛙から、「ピヨン太郎」こ云ふ名前を付けて戴きました。もうお玉杓子ではありませんから、お池の中でばかり泳いで居なくてもいゝのです。

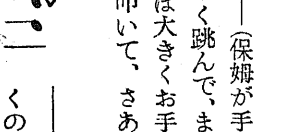
「明日はお池の外に出て跳ぶお稽古をしませうね」こお母

さん蛙に云はれてピョン太郎さんは大喜びです。その次の朝は何時もよりずつと早く起きて、「ねえ、お母さん、早く跳ぶ事を教へてよー」とせがみました。

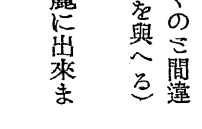
朝御飯を食べると、さあ跳ぶお稽古です。

お池の外に出てお母さん蛙が跳んで見せました。ピョン太郎さんは始めて跳ぶのですから一番やさしい跳び方を習ひました。

一つ大きく跳んで小さく跳んで、——(保姆が手を拍ちながら)——ピョンと大きく跳んで小さく跳んで、またピョンと跳んで小さく跳んで、——跳ぶ時は大きくお手々を叩いて、小さく跳ぶ時は小さくお手々を叩いて、さあ、みんなで一緒にやつて見ませう。——



——大きく叩くのと小さく叩くのと間違へない樣にお手々を叩いて、(拍手しながら注意を與へる)——



——さあ、綺麗に出來ましたね。——

それからピョン太郎さんは、毎日お池の外で跳ぶお稽古をしましたので直きに上手に跳べる樣になりました。

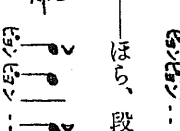
その中に近くの原つぱで蛙の運動會がある事になりました。ピョン太郎さんも、お母さん蛙に連れられて、赤い帽子を被つて運動會に行きました。蛙の綱引きや、蛙の幼稚園のお遊戯や色んな事があつてからいよ〳〵駈けつこです。蛙の子が澤山並んで立つてゐます。赤い帽子のピョン太郎ちやんも立つてゐます。

「ヨーイ、ドン」

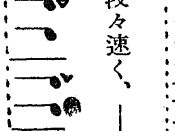
蛙の子が皆跳び出しましたよ。

「ピョンちやん、しつかりー」お母さん蛙も一生けんめい應援してゐます。ピョンちやんも一生けんめい跳んでゐます。

——さあ、みんなで蛙の跳ぶ樣にお手々を叩きませう。



——ほら、段々速く、——

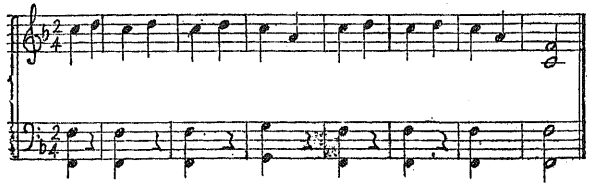


——隨分速く蛙びましたね。もう止めませう。——

ピョン太郎さんは、遂に一等賞になつて御褒美を澤山戴きましたとサ。

＊　＊　＊　＊

以上の話をした後で、「ピョン太郎さんの樣に跳びませう。」と云つて、遊戯室に行くか、又は廣い部屋ならば、その儘、幼兒を腰かけさせて、保姆が指導しながら幼兒に、二拍子の强弱の拍子を叩かせる。そして、一同のとる拍子で一人づゝ、



蛙のつもりで、立つた儘、兩足を揃へて、一拍目の强い拍子の時に大きく跳んで前進し、二拍目の時には其の場で小さく跳ぶ方法で跳びながら部屋を一巡させる。この場合手は自由の位置とする。一同へは音がバラ〳〵にならぬ樣に、又强弱をはつきりさせる事を注意する。

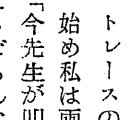
皆が一巡したら保姆が强弱のはつきりした伴奏を彈いて一同を思ひ思ひの方向に蛙のつもりで跳ばせる。或は男の子と女の子を別々にして、男の子の跳ぶ時は女の子が、女の子の時には男の子が拍子を取るのもよいと思ふ。

（上に掲げたのは伴奏の一例であるが、もつと適當なものがあつたらそれを用ひて戴きたいと思ひます。）

（山崎貴代子）

——◇——

幼兒に試みました私の一案を次に御報告致します。年少組をいつもの話し合ひの時の樣に圓く椅子を竝べて腰かけさせ、トレースの長方形の積木を二個づゝ與へ前に置かせます。始め私は兩手に一個づゝ持ち「今先生が叩く音は何の音かあてゝごらんなさい」と申し＊



＊と强の時は平に打ち弱の時には一方を平に他を斜に打ち今のは何の音ですかと尋ねました。幼兒は考へる間もない程早く一、二、一、二と云ひましたのでそれは何の音かと聞きましたら、或兒は體操と云ひ、又歩く音又は時計の音、或は汽車の音なぞ申しました。それでは皆が一緒に叩きませうと前に置いてある積木を兩手に一個づゝ持たせ私と同じやうにとて、一、二、一、二とかけごゑをし乍ら强弱をつけて叩かせました。皆大喜びでした。

次は體操、それは積木を前に置かせ兩手を前に出し胸に取り一、二、一、二と申し乍ら私丈積木を叩き前に出す時を强に胸に取る時を弱に致しました。次には腰をかけたまま足丈で前のリズムをたゝかせました。

次には積木を取り上げ時計の音をちくたく、ちくたくと云ひ乍ら打たせ、又次は兩手を横にかゝへ汽車の走る積りでがつたん、ごつとんと云ひ乍ら手を動かさせ少し馴れた時にそのまゝ歩かせました。始めは少し無理でしたが間もなく馴れ段々上手になり普通列車になり早くして急行列車になつたり、このごろは自由遊びの時庭の朝顔のトンネルの中に入り又は滑り臺、枠上りの下をくぐり乍ら汽車遊を致します。

口に ♪♪♪♪♪♪♪♪ シュッシュ、ポッポ、なぞ申し乍らさても愉快そうでございます。

年長組は矢張り始めは年少組の樣に圓になり、積木で*♪♪♪♪♪♪♪♪*と三拍子を打たせましたら直ぐに正しく打ちました。「港」を彈きますと强は平に弱は斜に打ち正しく打ちます、又强を强く踏みしめて歩かせ、又兩手を使ひ乍ら歩かせて居りましたが此の頃は或は積木或はタンバリンを持たせ、歩き乍ら手も共によく揃つて打つやうになりました。非常に樂しさうに熱心に致し都合で偶に朝致しませんと催促してしませうと申す樣になり、私共も何とかしてよく指導して遣り度相談し研究致し合つて居ります。

（八木澤しげ）

——◇——

リズム遊び「雨だれさん」

しとゝ〳〵と雨が降る日、保育室の中で靜かに切り紙等させてゐると、ポッツン、ポッツンと落ちて來る雨だれの音がリズミカルに可愛らしく聞えて來る。こんな日に幼兒に「雨だれさん」のリズム遊びをさせてみたいと思ふ。

次のやうなものも一方法であるかと思ふ。

形體　お話合ひの時と同じ樣に指導者と幼兒向き合つて腰掛ける。

リズム ♪♪♪♪♪♪♪♪

指導法　お話から自然にリズム遊びに導いて行く。

話「今日は雨が隨分よく降りますね。滑り臺にもブランコにもお砂場にもピチャ〳〵降つてるでせうね。あら雨だれの音が聞えますよ。」

幼兒に靜かに聞かせる。

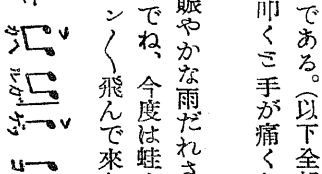
「ポッツン、ポッツン聞えますね？雨だれポッツン、雨だれポッツン。」　♪♪♪♪♪♪♪♪ ポッツン

こうして始め出し、前記のリズムで口に合はせて自然に手を叩く。

「さあ皆さんも雨だれさんよ。」

と云ひながら幼兒にも一緒にさせる。强部弱部は大きくつける。幼兒にも自然に强弱がつけられる樣に指導者は聲も拍手もはつきりさせるのである。(以下全部この樣に强弱をつけさす)あまり長い間叩くと手が痛くなるから次の樣に止めさせる。

「一寸止めて頂戴。隨分賑やかな雨だれさんなのでね、今度は蛙さんが僕もお仲間入りしたいと云つてピョン〳〵飛んで來ました。ほら負けない樣なお聲で鳴き出しましたよ。ゲッコ、ゲッコ、蛙がゲッコ。」



と云ひながら又前の樣に口に合はせて拍手する。

「今度は皆さんも蛙さんですよ。大きなお聲で鳴きませうね」

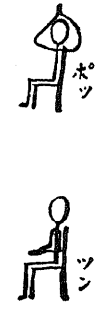
と一緒に繰り返へさす。そして又適當な時に止めさせる。

「まあ元氣な蛙さんです事。じや雨だれさんと蛙さんと仲よく一緒にしませうね。アマダレポッツン、カヘルガゲッコ、アマダレポッツン、カヘルガゲッコ。」

と交互に前と同じ樣にする。幼兒はこの邊まで來ると默つてゐても一緒にやり出す。皆がそろつて上手になつた頃又手を置かせる。

「さあ又一寸お休みよ。今度は雨だれさんは上から落ちて來る樣にこうしませう。」

と「雨だれ」は前と同じに拍手して、「ポッツン」は上から落ちて來る樣子をしてみせる。



拍手二つ。

「それから蛙さんはお顏を前へ出して鳴きませう。」

と「蛙が」は前と同じ「ゲッコ」は顏を前へ出して兩手で膝を二度叩いて蛙の樣子をする。

これを最後に繰り返へさせて

「今日の雨だれさんのお遊びはこれだけにしませう。」

と終りにするのである。尙ほこれは年長組である。

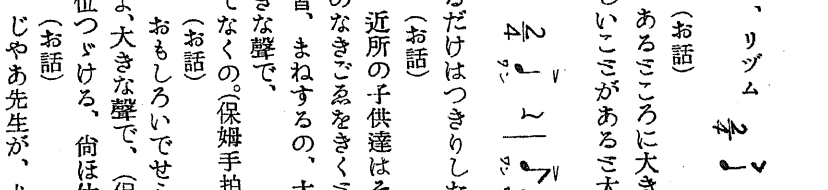
(橋本せい)

——◇——

(年少組用又は一年保育兒)

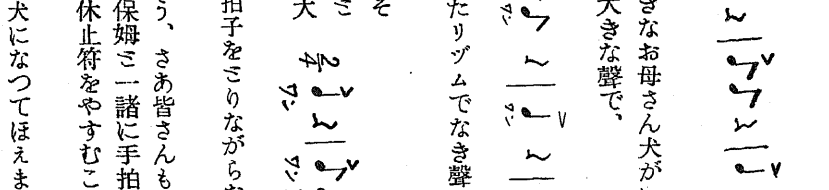
一、材料　小犬のはなし

一、リヅム



（お話）

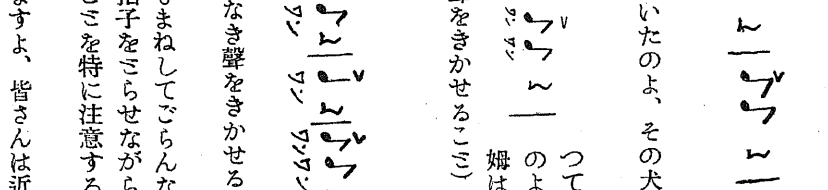
あるところに大きなお母さん犬がいたのよ、その犬は嬉しいことがあると大きな聲で、



つてなくのよ。（保姆は出來るだけはつきりしたリヅムでなき聲をきかせること）

（お話）

近所の子供達はそのなきごゑをきくと皆、まねするの、大



きな聲で、てなくの。（保姆手拍子をとりながらなき聲をきかせること）

（お話）

おもしろいでせう、さあ皆さんもまねしてごらんなさいよ、大きな聲で、（保姆と一諸に手拍子をとらせながら三回位つゞける、尙ほ休止符をやすむことを特に注意する）

（お話）

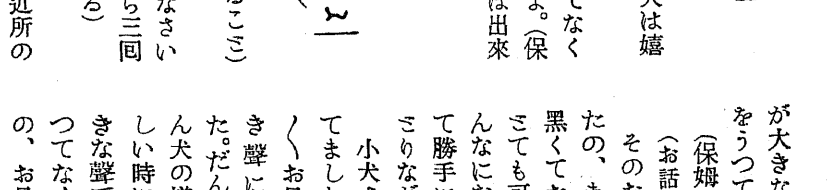
じやあ先生が、犬になつてほえますよ、皆さんは近所の子供達ね、さあお手々を打つてはやして頂戴、お母さん犬が大きな聲でほえますよ。お母さん犬のなき聲と同じに手をうつてね、

（保姆ほえる、幼兒手拍子、何度もくりかへす）

（お話）

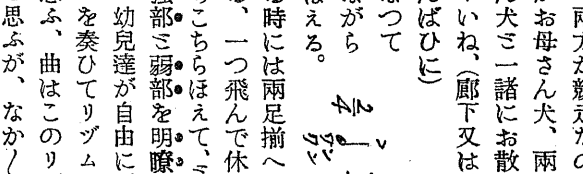
そのお母さん犬に三匹の可愛いゝ小犬ちやんが生れましたの、まつ白い毛のはえた白ちやん茶色と黑のぶち犬、眞黑くてお鼻の頭がちよつぴり白くなつてゐる黑ちやん、皆さても可愛いゝ小犬なのよ、お母さん犬は大喜びです。ごんなにないたでせうね。（幼兒に先刻のリヅムを思ひ出させて勝手にほえさせる。リヅムがはつきりするまで手拍子をとりながらほえさせること）

小犬さん達は始めのうちは小さな聲で時々クン〳〵云つてましたけど、だん〳〵お母さん犬のなき聲にして來ました。だん〳〵大きな聲でなくやうになると、やつぱりお母さん犬の樣に嬉しい時には大きな聲でつてなくの、お母さん犬も



つて、両方が競走なのよ。さあ今度はみなさんが小犬さん先生がお母さん犬、両方でほえつこしませうよ。そしてお母さん犬と一諸にお散歩に行きませう、みんなついていらつしやいね、(廊下又は遊戯場等へ出てみんなが犬になる、四つんばひに)

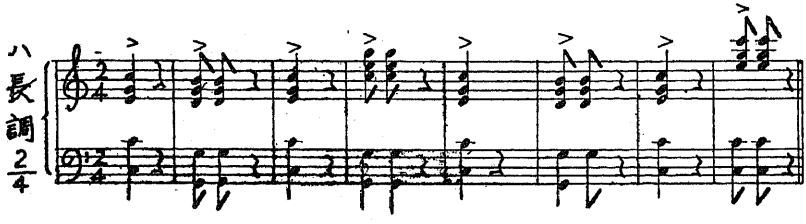
犬になつて
歩きながら
時々ほえる。



ほえる時には両足揃へて犬の立つた形をとり両足一諸にとばせる、一つ飛んで休止は休み、次に二つつゞけてとぶ。あちらこちらほえて、とばせる、(とぶ時もほえる時もリヅムの強部と弱部を明瞭に)

附、幼兒達が自由に飛ばれるやうになつたら保姆がピアノを奏ひてリヅムをはつきりさせてやることもよいと思ふ、曲はこのリヅムの入つたものが選ばれゝば幸ひと思ふが、なか〳〵見付からぬので下記の如く和音を組合はせて出來るだけ強部と弱部をはつきり奏ひてやるのがよいと思ふ。

(山村きよ)



自作貼紙かるた

世の中にはいろ〳〵熱心な方がありますが、先き頃、京都の保姆さんをして居られる辻智惠さんから、御自作の貼紙かるたを寄贈して來られました。御手紙によりますと毎年新工夫を凝らされて、幼兒自身に自作せしめられる由、その御熱心と出來ばえのお見事さに敬服いたしました。

(編輯係り)

郵便局遊び

――誘導保育案の一例――

附屬幼稚園　清水光子

毎日の新聞に、ラヂオに、赫々たる戰果の擧げられますのをきゝますこのごろ、日本人である誇と感謝、感激は日に募つてまゐります。子ども達の間では兵隊ごつこがますます盛になりました。斯うした時に誘導保育の主題に慰問袋をいたしましたので本當に自然に兵隊さん有りがたうといふ心からの感謝の氣持を深くするのでした。毎日々々兵隊ごつこの兵隊さんに、幼稚園の銃後から盛に慰問袋が送られました。遊戯室のテレスは野戰病院です。ゴザの寢床の上で、紙の赤十字章をつけた看護婦さんに結び目を解いてもらつてゐる重傷兵もありました。花びらのおかゆや煉瓦の粉のお菜の手當がきいて輕快になつた兵隊さんからは慰問袋のお禮が盛に送られて來ます。銃後はます〳〵慰問狀を出す、こんなことがきつかけで郵便あそびが始つたのです。

始め、お禮狀が看護婦さんや軍醫さんに運ばれましたがそのうち一人が僕が郵便やさんになると申し出て、出す人と受取人の間を直接往復してゐたのですがさつそくポストを作りました。斯うして次々に發展して行つた郵便あそびはほんの試案ですし、新しい試みでもないのでお恥しい限りですが皆樣の御批評をお願ひ致します次第でございます。

郵便局　あり合せのお店を用ひ簡單な窓口をつくりました。机を二脚程と衝立で圍つても結構だと思ひます。看板には木箱の蓋などに〒印をかいて郵便、電信などとかきませう。局の壁には飛行機や軍艦の繪のあるポスターをはります。これにはアイコクチョキンとかサイケンとかかきませうか、これは子どもの仕事です。

ポスト　蜜柑箱の古いのを用ひてなゝめのひさしをつけ、投入口をつけて〒印をつけます。赤い色はポスターカラーか何かで塗りませう。

切手　有り合せの紙の裏を用ひて縦横にミシンで切りめを入れて四錢、三錢、二錢を實物を見てかゝせます。

薬書　畫用紙を適宜の大きさに切り印紙をかきます。

小包　その時々送るものによつて形は大小色々になりますが包裝は大人が手傳つてしつかりと、そして宛名は墨で○○ヤセンビヨウインキムラヨシヲサマの樣にきちんとかかせませう。

秤　臺秤が作り度くて度々考へて見ますがうまく出來ません。それで平凡な桿秤にしました。けれども小さい子どもには桿秤の方が筋肉の練習になつてよいといふ事を或本でみてひそかに安心しました。これは秤の桿が激しく上下しないやうに、上から吊します。出來るなら目盛をつけ、それによつて小包料をきめて表にしてかき出しておくのもよいかと思ひます。

スタンプ　お芋が自由に使へるのでしたら子どもに彫れまして好都合なのですが、ない時には古インク瓶のせんを用ひました。キルクでない方に大人が小刀で實物を參考にして彫ります。

電報　賴信紙を實物を參考にしてつくつておきます。

かばん　書物のサックの有り合せのものを黑く塗り、赤で〒印をつけました。

これで大體用意は出來たやうです。もつともこれは用意が出來てから遊び始めるのでなくて遊び乍らつぎ〳〵に必要なものを作つてゆくのは言ふまでもありません。郵便局の人をきめて（代り代りになる）ポストに入つた郵便を集め、スタンプを捺して配ります。おまゝごとの家同志でも文通が始り遠足に誘つたり、訪問を約束したり、中々面白く發展してゆきます。

先日組の子どものお父さんで戰地へ行つていらつしやる方へみんなで慰問袋を作つて送る時、子ども達を近所の郵便局へ連れてゆきました。人の立て混まない時間を選んだので局の人も面白くいろ〳〵子ども達に話したり見せたりして下さつてようございました。

斯うして遊び乍ら薬書繪薬書は何錢切手か、封書は何錢切手をはるか、切手の賣買といふ事、又宛名はきちんとかくこと、小包のつくりかた出し方などを體驗します。勿論まだよく字をかけない子ども達ですから字をちやんとかくことは求めませんけれども出來るだけきちんときまりよくかゝせ度いと思ひます。子どもはお手紙を出すといふことが大好きです。子どもに出來ないことは大人が手傳つて一そう樂しい遊びにし度いと思ひます。尙ほこの遊びは年長組がよろしいかと思ひます。

幼兒に聞かせるお話

冬ごもりのお友達

附屬幼稚園　町田行子

道夫さんはこても元氣なお坊ちやんです。冷い北風が、ヒュー〳〵笛を吹きながらおもてを馳けまはつてゐる朝も、お庭に出て參りました。地面が白つぽく見えて、少しかさ〳〵に盛り上つてゐる樣です。道夫さんが歩きますこ、サク〳〵〳〵こ小さな音がして、お靴の跡が凹んでつきます。道夫さんは喜んで歩きまはつて足跡をたくさんつけました。でこぼこ地面になりました。

盛り上つた土をごけて見ますこ、下から霜柱が出て來ました。すきこほつた細い氷の棒が、たくさん集つてゐてこてもきれいです。

冷い北風に頰つぺたを眞赤にした道夫さんが、土をごけて霜柱を堀り出して遊んで居りましたら、ふこ、そこに小さな穴があゐのをみつけました。小さな深い穴で、中は眞暗で何にも見えません。何の穴かしら？こ棒を入れて見ますこ、中から誰かゞ棒を引張つて、

「道夫さん、おもては寒さうですね。この奥には廣いお國がありますが、こゝはこても暖かいのですよ。冬が來ておもてが寒くなるこ、多勢のものが私のお國へお仲間入りに來るのです。道夫さんもお遊びにいらつしやい。今、戸を明けてあげませう。」

こいふ聲がしました。

道夫さんがびつくりしてゐますこ、ガラ〳〵〳〵こ重い戸をあける音がしたかこ思ふこ、地面に大きな穴があいて、そこには眞黑いお洋服を着て、黑い眼鏡をかけた黑いおぢさんが立つてゐました。

「さあ、私の後についていらつしやい。」

こ暗いトンネルの樣な道をぞん〳〵歩いて行きますので、

「おぢさんはだあれ？」こ聞きますこ、

「私はね、地面の下に住んでゐるもぐらこいふものです。外から惡いものが入つて來ない樣に、戸をしめて鍵をかけて番をしてゐるのですよ。道夫さんはいゝ子だから、今日は私のお國を見せてあげませう。道夫さんのお友達がゐますよ。」

こ先に立つてズン〳〵歩いて行きます。道夫さんはお友

達つて誰かしらと思ひながらついて行きました。

暗い細い道で、所々にあかりがついてゐます。細い道をいくつかまがつて、今度は廣い道に出ました。もぐらのおぢさんと竝んで歩いて行きますと、可愛いゝお家の前に來ました。

トン　トン　トン　「ごめんください」

戸を叩きますと、暖かさうなお洋服を着た小さな蟻さんが出て來ました。

「あら、蟻さんのお家はこゝなの？　蟻さんは暑い夏に皆でセッセコ〳〵歩いて、キャラメルやお菓子のかけらや小さい蟲なんかのお荷物を運んでゐたのね。僕、蟻さんのお家をみつけようと思つて、何度も地面の穴に指を入れて堀つてみたけれど、いつも土がくづれてお家がみつけられなかつたの。蟻さん、此の頃は一寸も出て來ないから、どうしたのかと思つてゐたの。」

「まあ、道夫さんは私達の事を心配して下さつたのですか。私達はね、冬になると寒くておもてに出られないのです。ですから暑い夏のうち、皆でセッセコ〳〵働いてお荷物を運んで一杯ためたのですよ。そして寒い冬の間中、このお家の中で皆で樂しく遊んで暮してゐるのです。おいしい御馳走も一杯ありますし、ストーブもこんなに暖かくもやしてゐます。道夫さん、こども達と遊んでいらつしやいな。」

道夫さんは蟻のこども達に冬のお話をして上げました。裸ん坊の木のお話や、霜や氷や雪のお話を致しました。蟻のこども達は珍らしがつて大喜びでした。

道夫さんは蟻のお母さんが作つて呉れた甘いお菓子を御馳走になつてから、又もぐらのおぢさんと一緒に出掛けました。

少し行きますと、グーグー　ガーガー　クークー　スースー　いろ〳〵な音が聞えます。それは、お屋根の大きな、茶色のお家の中から聞えて來るのでした。お家の入口はしまつてゐましたが、カヘルノオウチといふ札がかけてありました。

「おや、こゝは蛙さんのお家なの？」

「えゝ、さうです。一寸こゝから覗いて御覽なさい。」

道夫さんが背のびをして、そこの小さなガラス窓から中を見ますと、まあ〳〵、多勢の蛙さん達が、暖かさうなおふとんにくるまつて寢てゐるのです。

グーグー　ガーガー　クークー　スースー　大きないびきで寢てゐるのはお父さん蛙でせう。小さな寢息でおねんねしてゐるのは赤ちゃん蛙でせう。何時も元氣に泳いだり、とんだりしてゐた蛙さん、草臥れたのですね。眼を醒まさない樣にソッと通りすぎませう。

道夫さんが歩いて行く道の兩側からは、細い小路がいく

つもわかれてゐます。

「その小みちを行くと、亀さんのお家や、私達もぐらの家や方々へ行かれるのです。」

ともぐらのおぢさんが話しました。

暫く行きますと、向ふの方がパァーッと明るくなつて、きれいなお家が見えました。

「あそこは草花さんのお家です。草のこどもがおほぜい居ますよ。」

もぐらのおぢさんがさう教へて呉れました。

草のこども、どんなに可愛いゝでせう。

道夫さんはどん〳〵馳け出して行きました。

みどり色のお屋根のそのお家には、可愛いゝ鈴が下つてゐて、紐がついてゐます。道夫さんが紐を引きますと、リーンチリリリーンときれいな音でなりました。

するとみどり色の着物を着たやさしさうな草のお母さんが、戸をあけて下さいました。

みどり色の天井、みどり色の壁、みどり色のカーテン、何もかもみどりのお部屋で、うすみどりのお洋服を着たかはいゝこども達が、面白さうに遊んでゐました。おまゝごとをしたり、縄とびをしたり、かけつこをしてゐた草のこども達が、皆道夫さんのまはりに集つて來ました。

「道夫さん、おもてはもう暖かくなつたの？私達も、もうお外に出ていゝの？」

たんぽぽ、すみれ、れんげ草のこどもや、つくしんぼの赤ちやんまでが、聲を揃へてきゝました。

「うゝん」草のこどもがあまり一生懸命ですので、道夫さんはお返事に困つてしまひました。すると草のお母さんが、

「お外はまだ寒いのですね。今出て行くと、霜のおぢさんに白い冷いお帽子をかぶせられたり、氷のおぢさんにすきとほつた冷いお洋服を着せられたりしてしまひます。今に北風や霜や氷のおぢさんがさようならをして、あたゝかい春風さんが來たら、あなた達もお外に出られるのですよ。それまでお家の中で遊んで待つてゐませうね。」

とやさしく仰云いました。道夫さんは、

「北風や霜や氷のおぢさんがさようならをしたら、すぐに僕がお迎へに來ます。皆でお手々つないでお外に出て一緒に遊びませうね。」

と可愛いゝ草のこども達にお約束を致しました。そしてトンネルの樣な道をもぐらのおぢさんに送られてお家に歸つて來ました。

今はまだ北風さんが笛を吹いておもてを馳けまはつてゐますね。霜や氷のおぢさんもまだゐますね。

でも、もうぢき、北風や霜や氷のおぢさんはさようならをして、北のお國へ歸つて行くでせう。

さうしたら道夫さんは、草のお友達をお迎へに行くでせうね。

各地幼稚園だより

鹿兒島女師附屬・吳ルンビニ幼稚園

鹿兒島女師附屬幼稚園

鹿兒島女師附屬幼稚園保姆　大迫トミ

倉橋先生方の御著日本幼稚園史にもお述べ下さつてありますと通り、當幼稚園が我が國の古い幼稚園と致しましての歴史を負つておりますと意味あひから、此處にその沿革の大略を述べさして戴きたいと存じます。

明治十二年四月、鹿兒島に於て幼稚園が設立せらるゝことになりました。これが鹿兒島幼稚園と稱し、今の鹿兒島縣女子師範學校附屬幼稚園の前身であります。設立に於ては女高師附屬幼稚園に次ぐ古い幼稚園であります。創設に當つては、當時東京女子師範學校保姆の豐田芙雄女史を迎ふる事になりました。鹿兒島に出張せられた女史は、直に幼稚園創設の任に當り、幼兒の保育を實地に指導されつゝ保姆の養成にあたられたと伺つて居ります。この時その薫陶にあづかりし者七名、フレーベル氏の二十恩物、話方、音樂、其の他保育に關する一切の指導をうけられたのであります。わけても音樂は琴(當園に殘存)笏拍子、歌などの合奏によつてなされたもので、未だ洋樂の發達しない當時のことなれば、總て豐田女史の苦心の作になつたものと聞かされて居ります。先きに先生御逝去のことを承りましては感謝哀悼の念にたえません。

翌十三年五月前記の七名は豫定のことを修め終へられ、保姆の免許を受けられると同時に五月三十一日附の辭令をもつて本縣幼稚園保姆として直に就任、豐田女史は間もなく歸京せられました。以後各保姆の異動はありましたが、明治四十年迄は專ら女史の教を奉じつゝ、只一つ、附屬幼稚園なるものが守られて來たのであります。

明治十三年本校が鹿兒島師範學校と合併につき、鹿兒島師範學校附屬幼稚園と改稱せられて女子教場の管理となりました。

明治十八年保姆六人幼兒百十餘人となり、讀方、書方、結び方、など必須科として附加せられ、今日の小學校のやうに教授せられたのださうです。鹿兒島縣幼稚園と改稱せられて獨立することになり、師範學校校內の一隅に移轉し師範學校長を園長に頂くことになりました。

明治四十三年獨立の女子師範學校創設せられ、翌年其附屬幼稚園として、在來の園舍は勿論、幼兒までも其のまゝ引き受けて新たに保育を開始し、女子師範學校校長を園長として二人の保姆が置かれました。幼兒の數四十三名、翌年四月全幼兒を小學校へ送り、新らしく募集を行ひ一年保育兒二年保育兒各二十四名、之を二組に編成して保育する事になりました。昭和十三年十二月には現在の新園舍の落成を見、昨年末には當園保護者會の絕大なる御後援のもとに二千六百年記念事業としての炊事場が增設せられ、遍食矯正並に食事の訓練もたやすく出來る樣になりましたことを喜んで居ります。

現在は、二年保育で、園兒數、七十名、職員數二名、保育料、一圓保姆養成科生(昭和十四年新設)十四名であります。

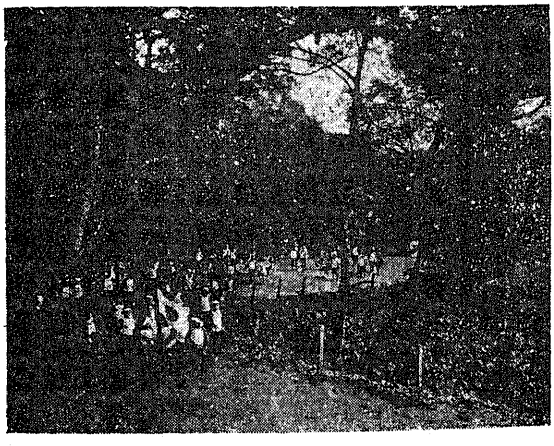
幼稚園內の日々の遊びと申しましても殆んど他の幼稚園と相合致するものが多くございますので特記致しません。

幾多の偉人傑士を輩出した鄉土鹿兒島は、早くから幼兒の教育の必要なる事に着眼せられ、東京に次いで我が鹿兒島にも創設せられたのであります。偉大なる先輩の志を志せんと希ふ私共は、鄉土の子供達のよりよき育成のためにあらん限りの誠を保育道に捧げたいと思ひます。

次に寫眞の說明を申し上げます。

(一)自然を滿喫する城山踏破

當園の裏山として親しみを持つ城山(大西鄉終焉の地)は

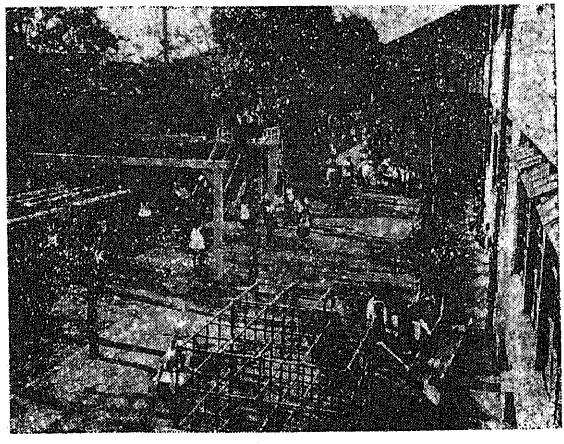


自然を滿喫しつゝ城山踏破

蝶取り、花つみ、バッタ追ひ、蟲取り、落葉拾ひ、ドングリ拾ひ等々數へあげれば數限りなく、四季變化極りなく、興味のつきない唯一の體錬道場であります。この神祕な城山の懐の中に吸ひ込まれる如く喜々として足を運ばせる幼兒たちの姿。

(二)シャモさんもおいで

全幼兒は未だ出揃ひませんけれども、冬と申しましても小春日和の樣な和かい日差しに、幼兒たちは元氣一杯今日一日の遊びを繰り擴げようとしてゐる所であります。



でいおもんさモヤシ

ルンビニ幼稚園

ルンビニ幼稚園主事　利島勝進

當幼稚園は吳市神田町九丁目にあり、佛教關係の幼稚園であります。

一、ルンビニの名稱

四月八日、大聖釋尊が御誕生遊ばされた印度のルンビニの花園名を稱ぶので、卽ち大聖者のお誕生遊ばされたなごやかな、しかもうらゝかさと又家庭生活から集團生活への子供の誕生の園として、こういふ名稱がついたのです。

一、職員數

園　長　一名　主　事　一名
保姆及見習共　七名　小　使　一名

一、園兒數
　一年保育　一三〇名
　二年三年保育　七五名
一、保育料
　一ヶ月　二圓五十錢
一、園の後援會卽ち父母會
　會費一ヶ月　十錢

私は常に幼稚園の保育方針を次の樣に考へて居る。

以前の外國的な自由主義精神の教育を幼兒から絕對に排擊すること、日本的な自由さで特に規律をもつて幼兒は教育されなければならない。

一、國民學校入學前の幼兒の教育はどんな場合でも、またどんな人が躾けても、躾け得られるやうに躾けること、すなはち日本精神の性格を植ゑつけるために幼兒が純粹の日本人になつてゐなければならないことである。これが將來のわが國の必要とする人物の幼兒における理想狀態である。

從來の幼兒教育は絕えず幼兒に對する迎合主義に終始し、幼稚園でもたゞ幼兒よりも父兄に對するヘツライ的な教育であつた。然しこれからの幼兒はすでに國家の幼兒であり、天皇陛下の赤子であることを思へばたゞこれらを保育者のヘツライ的遊戲物であつては甚だ相濟まない事と信ずる。教育といふことも私にいはすれば國民學校やそれ以上の教育よりも最も大切なのがこの幼兒の教育であると思ふので、

私は教育者がまづ身をもつて行ひを正し、腹の教育は腹藝とまでならなければ嘘だと信じてゐる。私の方の幼稚園は事變以來は保育時間も多くし、遊びも國家的に、集團的に絕えず務めてゐる。私は幼稚園の缺陷とされてゐる父兄などには一切こだはらず教育してゐる積りであるし、いはんや幼兒を甘やかすやうな迎合は進んで排擊してゐる。教育者も亦たゞ呼びかけるだけのものではなく眞に腹の据つた日本人の教育者であることが先決問題であると思ふ。

（吳鎭守府檢閱濟）

誌上講習

兒童心理學 第二講

親と子の問題（二）

牛島義友

眞實の親　前回は兩親揃つて居ても尙育兒上色々の問題がある事を述べた。今日は兩親が揃つていない場合の諸問題について考へよう。親は單なる保護者ではなく、血の連りのある保育者である。血の連りがあればこそ子供が調子良く成長して居る場合のみならず、子供が不出來である場合、不良や不具や低能である場合にも強い愛情が湧いて來る。否斯る場合の方が一層強く親子一體の感が強くなり、子供の不幸は自分の責任であると痛感し、凡てを犧牲にしても子供の幸福を念願する樣になる。此の眞實の親の愛は神祕的なものではあるが未だ理解する事が出來る。然し子供の眞實の親を求める氣持は一層不可思議なものである。親切な保護者、養ひ親に愛育されて成長したのならば、それでよさそうなものであるのに何故それに不滿なのであらうか、何故血の連りを求めてやまないのであらうか、子供の本能だと言つてしまへばそれまでゝあるが餘りに神祕的な感情である。

此の子供の眞實の親を求める氣持を完全に分析する事は出來ない。併し之に關係のありそうな要素を少し考へてみよう。

「みかへりの塔」の最初に引例されてある問題兒は興味深い例である。卽ち十一歲の時に感化院に入つて來た子供、些細なことでも一度怒ると、氣狂ひのやうに喧嘩し、相手が强ければ强いほど、ます〳〵亂暴になつて行く子供、教師や保姆の訓言も、鐵板でも張つたやうな彼の心からはね返るだけで、少しも中に徹せず、氣に入らぬことがあれば外に飛び出してしまふ子供。どうして斯んな子供が出來た

のであらうか、眞實の母親からは切なる手紙が度々來る。嚴寒の最中に水垢離する五十の老母、子供の改心を祈つて九十餘日を費して四國巡りをする母親が居るにも拘らず何故に彼は不良になつてしまつたのであらうか。彼の不良化の原因と言ふのは實はこれ程までに吾子をいとほしんで居る母親の眞實性を疑つて居る事であつたのである。此の實母を自分の眞實の母親とは思はず、別に母を求めて苦しんだあげく亂暴をして居たのである。彼が自分の實母を疑ふ樣になつた事件は全く文字通り子供欺しの事であつた。

——彼は小さい時からいたづら者だつた。一人息子で甘やかされたところもある。七歲ばかりの時、あまり惡戲がすぎるので、母は彼をおごかした。「私はお前のやうないたづら者のお母さんではない。お前のやうな者は、學校にも家からはあげられない。お前のお母さんは和歌山の自轉車屋にゐるから、この上惡いことをしたら、そちらへ返してしまひますよ。自轉車屋に行つてしまひなさい。」ふとさう言つたのがもとで、和歌山の自轉車屋が何度か使はれた七歲位の幼兒に話された欺し文句、之が全く致命的に作用して居たのである。從つて後になり此の和歌山の自轉車屋一件が全くの作り噺である事を知るや今までの亂暴は鎭まり誰にもまして母を慕ふ樣に變つた。

此の悲喜劇は兒童心理學に敎へる處が非常に多い。子供は何故一片の嚇文句を眞に受け、激しい心の惱みやもつれを引起してしまふのであらうか。この事には二つの事が考へられる。第一は親の愛情への疑惑である。親の愛を子供が疑ふ等とは前述の事と矛盾もし、倒底あり得ぬ事の樣ではあるが、幼兒は案外に親の愛を疑ふ。幼兒は多分に唯物的であり自己本位である。幼兒は直接自分にお菓子をくれ、愛撫し、面倒を見てくれる人に愛情を感じる。少しでも親の愛撫の手がゆるむと非常にさびしがり、何とかして親の注意を自分に惹き付けてをかうとして色々な策を用ひる。母親と話をしてをる父親に向つて「お父さん少し散步していらつしやい」と言つたり、來客があると殊更にぐづついたり、弟妹が生れると激しい嫉妬を感じて、赤ん坊の樣に懷かれんとしたり、赤ん坊をいじめたりする。斯る自己中心的な唯物的な愛情感の爲に幼兒は時に自分の親の愛を疑ふ事も起つて來る。

第二の原因は幼兒の童話的な考へ方である。幼兒は童話の世界と現實の世界との區別が完全には出來てゐない。童話の世界が其の儘實現するかもしれないと思つて居る。童話の中には捨子や貰ひ子や繼子の話が澤山盛られて居る。從つて若し幼兒に「お前さんは橋の下から拾つて來たのだよ」と言つてからかふと相手は眞に受けて心配し出す。斯る事は年長の者がよく用ひるからかひの言葉であるが幼兒に

及ぼす影響は極めて大きい。毎晩寢る時には親に捨子で無い事を確めなければ寢付かない子供等も出來て來る。これ程までに子供は冗談を眞に受けてしまふ。

以上の事等が原因になつて子供が親を疑ふ樣な事まで起つて來る。而も唯疑ふばかりでなく、それが原因で不良化してしまつたりしては大問題である。

養子、里子　小糟三合あれば養子に行くなこの言葉もある位であるから成長して後に養子こなる場合にも多くの心理的問題が在らう。併し玆では乳幼兒期から養子になつて居る場合を考へよう。此の場合養家も子供が欲しくつて養子するのであり、子供の方も無心の小兒であるから幼少年時代には大した問題もなく順調に育つ、子供は養父母を眞實の親こ思ひ込んで甘えたり我儘を言ひ乍ら育つて居る。問題は此の子供が自分が養子であり、眞實の親は別にあるこ言ふ事を知つてから發生する。此の餘計な知識はお節介な近所の小母さんこか乳母こか中等學校入學の時の戸籍抄本等色々なここから與へられよう。併し此の場合誰が惡いこ言ふ譯ではなく青年期に達する頃には自ら判つて來るのが普通であらう。此の餘計な知識によつて發生して來る子供の心の苦しさは此の密告者に責があるのではなく、又養父母に缺陷があるのでもなく、全くどうする事も出來ない心理的な感情である。今まで眞實の親こ信じ切つて居たゞけに裏切られたこの氣持が强い。之は說得で落付く樣なものではない、理窟を超えた淋しさである。今まで快活な少年であつたのが一朝にして憂鬱な少年に變つてしまふ。此變化は防ぎ樣のないものである。方法こしては唯其程度を緩和さす事だけが考へられる。此大きな心の衝擊でも精神の平靜な時に起れば比較的輕くてすむ。分別のある成人ならば之に耐へられよう。併し精神の最も動搖してをる青年前期、中等學校時代に起るこ全く致命的な作用をなす。さなきだに此時代は親に對する信賴を失ひ、反抗的になつて居る時代である。此時代に自分の親が眞實の親でない事を知るこ、青年の凡ゆる不幸、惱、憂愁、反抗が此事こ結び付けられ、激しく養父母をうらみ憎む樣になつて來る。故に此養子であるこの知識は青年期になる前に與へるこよいこ言はれる。併し少年期だから無關心に聞いてくれる譯ではない。如何に愛情深く、條理を立てゝ言ひ聞かせても子供の受ける衝擊は大きい。だから一番よいのは矢張養子をしない事であり、若しするこすれば成長してから後に入養子でも取るのが一番問題がない。

眞實の親が別にある事を敎へられるこ其親を求める氣持が急に强く湧いて來る。それならば實家の方に返したらよさそうなものであるが、併しそれも巧く行かない。養父母に對しては裏切られた氣持もあるが、又同時に長年の愛育

に對して愛情も殘つて居る。實家に歸されると今度は此愛情の方が强く働いて來る。又實家に對しては血の連りとしての連結感はあるが、長く離されて居た爲に生ずる冷々さ、自分の子供を他人にやつてしまふ樣な薄情さが感じられて來る。此爲に彼は養家では不滿であり、實家では冷遇される樣に感じて、何處にも自分の安住の家が無い全くの孤獨感に襲はれる事になる。

此氣持は養子の場合のみならず、長く里子に預けた場合にも同樣に起るらしい。下村湖人氏の自敍傳的小說「次郎物語」は此間の子供の心理を巧に描寫して居る。此小說は少し說明的調子が强すぎて、眞の子供の生活と少し違ふ樣でもあるが、斯る境遇の子供の心理を實に巧に描いて居る。無心の子供と成人が輕く考へて居る子供の心の中に激しい嵐が吹き荒んで居る事を敎へてくれる。

繼母　繼子繼母の問題は一番厄介な問題である。父は異つても實母であれば問題は遙かに少なからう。子供は母と一緒に生活する時間が遙かに多いから。併し父が亡くなつた場合には連子して再婚するよりも母の手一つで遺兒を育てようとする場合が多いから、實母異父の場合は少く、專ら異母實父の關係になつて居る。而して斯る不幸な例が非常に多い。十人居れば一人か二人は繼母の問題で惱んで居る。繼子は既に今度の母は實の母でなく繼母である事をはつきり知つて居て、新しい母が來る前から警戒し、反感を持つて居る。子供は繼母に對して惡い先入主を持つて居る。此偏見を授けるものは多くの物語である。繼子いぢめの話は非常に澤山ある。子供達は繼母は繼子を虐使するものだ、粗衣粗食で臺所の隅で働かせるもの、實子ばかり愛して自分達を憎むものと思ひ込んで居る。

斯る偏見を懷いて居る子供達の中に入るのであるから新しい母親も氣の毒である。彼女は繼母子關係が困難である事は充分覺悟して緣付いて來る。自分こそは模範的な繼母、實の母より愛に滿ちた態度で敎育してやらうと決心してやつて來る。併し此決心が既に誤つて居るからいたましいのである。實母でない者が實母の樣に或は實母以上の態度で臨まうとする處に無理がある。彼女は一心にそれこそ實の親でも出來ぬ位に細々と行ゞいた世話をするであらう。敎師がこれ丈熱心に仕事をすれば必ず敎育效果は上る。然るに繼母の努力は報ひられぬ努力である。偏見を持つた子供は繼母の世話をうるさいと思ふ事もあらうし、何か思ふ樣に行かぬ時には直ぐ若し眞のお母さんが居たらばと思ふであらうし、思ふだけでなく態度にも現れて來る。斯る子供の態度に出遭ふと、努力して居る母親程落膽せざるを得ない。これ程までして子供の世話をしてやつて居るのに、と情無く感じるであらう。子供が言付けに從はなかつたり

ひねくれた場合、實の母ならそれ程氣にしなくとも、繼母なるが故に非常に氣になる。斯る場合には夫の愛情と夫の裁斷に賴らうとする。併し夫の愛情には何か隔てが感じられる。夫は普通最初の妻に對する樣な愛情を持つ事は困難であり、妻に對する態度に多少事務的、便宜的な態度もあらうし、時に亡妻を想ひ出す事もあらう。或は後から來た妻にはよく判らない話題を子供達と交して樂しむ事もあらう。斯る場合に妻は全く取殘された樣な氣持、其家庭の中に入り切れない淋しさを味はされるであらう。

又繼母子間に問題が生じた場合に實父の取る裁斷が兎角當を失し勝である。彼は妻に同情する餘りに大した事でなくとも子供をひどく叱る事もあらう。斯る場合子供は父親までも自分達を冷遇すると感じて家庭が一層冷たく感じられて來る。或は又反對に子供が言ふ事をきかない場合に「お前の教育の仕方が惡いのだ」と繼母を叱つて子供を不當に庇ふ事も起らう。斯る場合子供は繼母に對し一層反撥的にならうし、繼母の方は全く身の置き處が無くなる。これ程までにしてやつてるのに子供がなつかないのなら一層の事と言ふ氣持に變り、育兒に對して興味を失ひ、自分の興味を追求し、放縱、虛榮に流れる事もあらうし、若し自分の子でも生れてくれれば其方に專心し、繼子の方は忘れ勝ちになり、繼子がひねくれると腹立たしくなり、繼子虐待にまで進む事も起らう。

十歲位の感化院に居る女の子でどうしても家へ（繼母）歸らうとしない者も居るし、一般に繼母子間が巧くいつて居る例は聞いた事がない。どんなに優れた女性でも、實子の方は立派に育て上げた母でも繼子との間は巧く行つて居ない。

斯くも困難なる繼母子の問題に對しては然らば如何に處したならばよいであらうか。この一つの徹底的な對策は「繼子を吾子と思ふな、繼母を實母と思ふな」と言ふ態度で臨む事である。繼母の方から言へば吾子と思はうとするからこそ教育效果が出なくて腹立たしくなるのであつて、初めから繼子と言ふものは如何に努力しても實子の樣にはゆかぬもの、それは自分の德の足りない爲ではなく繼母子と言ふ心理的關係が問題を歪曲してしまふのだと言ふ事を達觀し、觀念して掛れば、假令子供がなつかなかつたり、邪推する場合でもそれは繼子の心理だと思つて、腹立たしくなるよりも氣の毒にならう。

又子供の方に對しても、今度來る人を眞の母さんと思つて孝行せよ等と訓さない方がよい。眞の母と思ふと繼母の處置が事ごとに不滿であらう、然し若し他人だと思へば、他人の割には隨分親切な、行屆いた人であるとして感謝する氣持が湧かう。故に青年期に達して繼母の問題に惱んで居る人には斯の樣に母に對する態度を改める事をすゝめて居る。

月刊「幼兒の母」に就て

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にもと、一昨年一月、月刊「幼兒の母」を始めてから、もう三年になります。毎號甚だ不出來ですが、夫でも廣く各地幼稚園の御賛同を得て、月々と、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。あんな小さいものですが、從つて內容も簡單至極のものですが、毎月一萬數千のお母さんに讀んでゐて貰へると思ふと、大によろこんでゐます。ほんの四頁といふのも、忙しいお母さんの立讀みにもといふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さることゝ、これが何よりなのです。

就ては、從來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新らしい方々にもお願ひいたします。尙ほ、今までは毎月「幼兒教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたことゝ思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手數の多いことですから、半年分なり一年分なりまとめて御註文下さるやう願ひます。當方でも印刷部數の豫めきまつてゐることが、時節柄必要になりましたのです。それで新らしい幼兒の入園から新たに御配布の方も多いと思ひますから、四月を始めとして、四、五、六、七、と四ヶ月を一期、九、十、十一、十二、と四ヶ月を第二期、一、二、三と三ヶ月を第三期としてまとめた方が御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部　金貳拾錢（一部金貳錢）

○送料　十部まで三錢　二十以上送料不要

○十部以下の端數はおことはりします。

一、御註文の節は部數と何ヶ月分といふことゝ御送り致す宛名を特にはつきりお書き記し下さい。

一、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座（東京一七二六六番）をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校附屬幼稚園內、日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたことのやうですが、御利用の仕組は（イ）幼稚園が保護者に無料で配布される場合、（ロ）實費を保護者銘々の負擔となさる場合、（ハ）幼稚園內の保護者會或は母の會等が費用の負擔をなさる場合等、その他いろ〳〵の仕組があらうと思ひます。

充分御利用下さい。

昭和十七年
二月

大東亞戰爭必勝完遂

家庭に於ける大詔奉戴

本年一月から、毎月八日を以て、大詔奉戴日とすることは、内閣告諭で公布せられ、既に實施せられてゐる通りであります。その本旨は更めて申すまでもありません。昭和十六年十二月八日を以て渙發せられた對米英宣戰の御詔書こそ、一億國民の全精神、全氣魄を以て、日夜に奉戴してゐるところであります。

八日の奉戴日には、その日が休日でない限り、幼稚園でその日が守られる筈です。しかし幼稚園だけの日でないことは素よりです。國民の日として、先づ家庭で守られなければならないものです。大詔の御精神を子等に語るものは、先生に限るものでないのは素よりです。我子に語る母の言葉でなければならない筈です。わけても八日が休日に當つた時、この大切な日を我子に守らせるものは、家庭であり、その役目こそ、今日のお母さん方の大事な役目です。

但し、この日を守らせるといつて、終日を特別な形式の日にすることではありません。戰地では寸刻の休止もなく進擊が行はれてゐるのです。家庭でも平生の生活と仕事のまゝに、否一層それを充實させながら、大詔の御精神を心に呼び起し盛り上がらせるのでなければなりません。その爲に、お母さんは、ふだんから常に、大詔を奉誦してゐる人でなければなりますまい。

幼稚園から

○この月は一年中での一番寒い月でせう。それに對する健康上の注意は、齋藤先生のお話をよく讀んで守つて下さい。そして、幼稚園がよく御協力の出來るやうにして下さい。家庭と幼稚園と衛生上の方針が矛盾してゐたりしては、お子さんの爲、一番惡いことですからね。

○一年の中斯ういふ寒い日の來るのも亦、日本人を強くする爲の、自然の惠みだと考へませう。冬のない國なんか、とてもほんとうに國民鍛錬は出來ますまい。與へられた寒さもおそれますまい。

○この心で、幼稚園では、お子さん方を、冬に負けさせないやうにします。身體の方も素よりですが、少し位の雪や風に負けるやうな弱い精神では仕方がありませんからね。身體の方に無理をしない限り、精神の方は相當鍛錬します。冬の幼稚園が冬に負けてゐては隱居院になつて仕舞ひますからね。

教育講話

大東亞戰爭を我子に教へるには

——特に幼兒の爲に——

倉橋惣三

□まだ幼い我子に、此の戰爭の大きな精神や、澤山の經過を、くわしく教へることは、むづかしいことです。國民學校の兒童やそれ以上の生徒に語るやうな話方は出來ませんし、又そうした徹底したことは出來なくてもいゝのでせう。しかし、この國を擧げての緊張の中にゐる子どもは、幼いとて、それに應じた深さで、關心をもつて暮してゐます。又われ〳〵としても、何かを子どもに語り聞かせずにゐられません。又、それが是非必要のことでもあるのです。

□では、どういふ風に語り聞かせませうか。それには、宣戰の御詔書こそ一切をお示しになつてゐることで、私共は、先づよく御詔書を繰りかへし奉讀して、その御主旨を正しく、强く、拜戴しなければなりません。

□御詔書そのまゝは、幼い子には理解させ兼ねませう。貴い御言葉として、奉讀して聽かせることはいゝでせうが、それに基いて、母が折々に我子に話す話し方としては、母の誠心から、自ら語らずにゐられない諸點がありませう。私はここで、御詔書の謹解を申上げようとしてゐるのではありません。母の誠心からの言葉は斯くもやと思ふところを拾つて申すのです。

□先づ第一に、この大東亞戰爭の勇士達が畏くも天皇陛下の御命令で戰つてゐることです。又、出征軍ばかりでなく國民全體が天皇陛下の御命令の下に、

榮養本位

子供向きお菜

厚生科學研究所
國民榮養部
佐々木理喜子

私共の手近にある干魚は、メザシに次いで鹽鮭や鹽鱒がよく用ひられます。榮養價は生魚と大差なく、燒くだけでなく色々に工夫しませう。持つている鹽氣を調理に利用しませう。

【1】混ぜ飯

材料　鹽鮭又は鹽鱒二八瓦　小松菜三〇瓦　人參十五瓦　油二瓦　馬鈴薯三〇瓦　以上で蛋白質八・八瓦、溫量九八カロリー

調理法　馬鈴薯は、小さく賽目に切り、米に混ぜて先に御飯に炊き込みます。鹽鮭は身を細く切り、皮は取つて別に刻みます。人參は卸金で卸し、小松菜は細く刻みます。フライパンに油を少量入れ、人參、小松菜を炒め、鮭を後で加へ、よく火を通します。此れに少量の砂糖、トマトソースを加へ、御飯に混ぜます。

【2】シチユウ

協力一致してゐることです。日本では國の爲といふのは　天皇陛下の御爲といふことです。又　天皇陛下の御命令の下には、一切を獻げて御奉公申し上げるのが、日本臣民だといふことです。これは平生も全く同じことですが、今日ほど、はつきり、くつきり、幼心にも感じさせ得ることはないでせう。

□ですから、戰勝の報を喜ぶのは、國の爲にいゝからであることは勿論ですが、臣民としての心からは、畏れ多くも陛下の御心を安んじ申上げることが出來るから、ほんとうに嬉しいのです。畏れ多いことですが　陛下こそ此の戰爭の經過を、一番御念慮あそばされてゐるのです。そのみ心は、御詔書の上にも、よく拜せられることです。私共も、戰勝の喜びを、此の心を以て我子に語りませう。

□この戰爭に日本の打つて出たのが、實に東亞全體の爲であることは申すまでもありません。米を攻め英を打つのも彼等が東亞の爲に正しい理解をもたないからです。平にいへば米英と喧嘩してゐるといふよりは、叱つてゐるのであり、懲らしめてゐるのであり、言ひ聞かせても分らないから罰を與へることにしたのです。況んや、米英に引つばられてその組になつてゐる、東亞小國の人民の如きは、憐れみ助けるといふか、實はその者達の爲に戰をしてやつてゐるといつていゝ位です。此の宏大無邊な本旨も、御詔書の上によく拜せられる點です。但し、このことは、理義としては、幼兒の頭には大き過ぎるかも知れません。しかし、こういふ譯ですから、此の戰爭は大國民の戰爭であり、此の戰爭によつて、日本人が益〻大國民にならなければならぬことは、實際の上に於て、幼い子どもにも敎育出來るのです。

□それにしても、太平洋地圖は是非各家庭に、子どもの目によく見えるところにひろげてなければなりません。あの廣い海、その澤山の島々、風土も風俗も我國とは隨分異つてゐるあの國々、それは、之れからの日本の子どもにとつて、遠い知識であつてはならないところだからです。あの發音の珍らしい土地々々の名も、子どもの耳に、おのづと事新らしくないものにして置かなければなりません。今日の幼兒がおとなになる時、あの邊こそ活躍の舞臺、樂しい仲間同志にもなるのですから。

材料　鹽鮭又は鹽鱒二八瓦　馬鈴薯四〇瓦　人參二〇瓦　油二瓦　青菜小々

調理法　馬鈴薯や人參は普通のシチユウの時の樣に切り、油で一寸炒めてから、鍋に入れお湯を加へて軟く煮ます。鹽鱒は五分角位に切り、後で加へます。全體が軟くなつた時に、メリケン粉の水溶きを少々加へ、味は鹽と少量の醬油で付けます、青菜は刻んで、一番後で加へます。醬油は味をよくする爲で、「カクシ醬油」の程度に致します。

【3】飲みもの

お寒い時ですから、體の溫まる飲物を作りませう。よく食べます密柑の皮をきれいにして、カラ〳〵に乾します。小さく切り、更にフライパンで、焦げない樣に一寸炒り、よく乾いた摺鉢で細い粉末に致します。小匙に半杯位を茶碗に入れ、適當量の砂糖と熱湯を入れて飲みます。古生姜汁を少々入れてもよろしい。

二月の衛生

醫學博士　齋藤文雄

○米英戰の起ち上りの素晴らしさはどうでせう。それに就いての詳しい報告が次々と入つて來る度に私は涙なしには新聞を讀めません。この間のお話しには、

A大尉「敵の對空射擊がブンブン鼻先を掠めて突き拔けるのに閉口してもう駄目だと觀念したが其瞬間には不思議にもおふくろの姿がありありと眼前に浮び上つてくるものだね。俺のおふくろは毎朝神社に詣つてゐる相だが、それが神社の前に手を合せてうづくまつてゐる姿なんだ。本當に有難いと思ひもう死んでもよいと思つて氣が輕くなつた。」

E中尉「もう最後だと思つて觀念した時は母親の顏がありありと浮び上つて來る。」

○皆さん有難い事ではありませんか。普段の母親の掬めども盡きせぬ慈愛の泉、同時にしつかりと子供を訓育した日本獨得の婦人精神、それが愈〻最後の御奉公になつて判然と勇士の腦裏に蘇つて來るのです。もうこうなると單なる一人の母親ではありません。大きな母性愛、ひいては國の愛、祖宗天照皇大神宮が大和島根に垂れさせ給はつた大きな愛そのものであります。母親の日常の擧動、言葉、躾、教育と云ふ樣な細かい事が合成されると神の愛となつてゆきます。御子さんを育てる事の六か敷さ。貴さ。有難さ。／

○一年の中で一番寒い此頃、本當に土まで凍み徹る樣な寒さの中で御子さん方は御元氣でせうか。この頃は御子さんも寒さと云ふものに慣れますので存外病氣をいたしません。寒さに徹してしまひますと又その中に生き方がある譯であります。もう赤ちやんでは無いのですからお爺さんやお婆さんの御考へで御子さんを消極的にしてはいけません。寒くても外で遊べ。雪が降つたらそれも御子さんの玩具の一つ、思ふ存分鍛練に利用いたしませう。

○霜燒けで痛々しい御子さんがありますね。これは體質にもよりますが出來た方はどうしませうか。御子さんは自分で癒してやらう等考へません。お母さんが默つて御手當をいたします。元來これは寒さの爲めに鬱血してそこが腐るのですから、出來る丈け血の循環をよくしてやる事です。熱い湯と水に交互につけましたり太陽燈をかけましたり膏藥をつけたりしますのも結局皮膚を刺戟して血の循環をよくしてやると云ふ事なのです。

○この頃から地方によつては麻疹が出て參ります。大病を患つて未だ充分に元氣を取り戻してゐないお子さん、結核反應が最近陽性であつた、つまり結核に感染して間も無い樣なお子さん、そう云ふ方はひどい目に遇ひますから流行と同時に麻疹の延期願ひを出して下さい。延期願ひつて何でせう。御父さんやお母さんの血液なり血清なりを充分に注射して貰ふ事なのです。

日本幼稚園協會編輯　幼兒の教育

會長　東京女子高等師範學校長　下村壽一
主幹　東京女子高等師範學校教授　附屬幼稚園主事　倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ケ月金參拾五錢ヲ醵出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク
但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催
一、雜誌發行（毎月一回）
一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一名	會務ヲ總理ス
主幹	一名	會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
幹事	若干名	會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
評議員	若干名	重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹　幹事　評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽコトアルヘシ

第十三條　本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割增）
一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

一ケ月分	金參拾五錢
半ケ年分	金貳圓拾錢
一ケ年	金四圓貳拾錢
六冊送料	共
拾貳冊送料	共

廣告

特等面一頁	二等面一頁
金貳拾圓	金拾圓
一等面一頁	一頁以下
金拾五圓	御斷り

神田區駿河臺ノ三品田廣告社に御申込下さい

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和十七年一月二十八日印刷納本
昭和十七年二月一日發行
幼兒の教育　第四十二卷　第二號

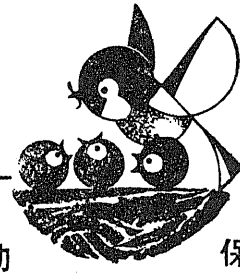
發行兼編輯者　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　倉橋惣三
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　柴山則常
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　合資會社　杏林舍
發行所　東京市小石川區大塚町三十五　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

不許複製
禁轉載

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回一日發行）
昭和十七年一月二十八日印刷納本
昭和十七年二月一日發行

日本保育館發行書目

幼兒敎育に於ける生き生き指導書
實際の保育上に直に役立つ良書



保育叢書

第一編　幼兒の爲めの　人形芝居脚本　倉橋惣三先生監修　菊池ふじの先生共著　四六判總布本綴各册定價金一圓送料六錢
第二編　自然物おもちや　德久孝子先生共著　膳眞規子先生著
第三編　幼稚園の手技製作　及川ふみ先生著
第四編　實驗保育學　和田實先生著

幼兒性行評定尺度　淡路圓治郎先生著　定價金一圓送料六錢

幼兒發達檢査　淡路圓治郎先生　牛島義友先生　吉田虎彦先生共著　定價金一圓送料六錢

農繁託兒所の經營　倉橋惣三先生　緋田工先生共著　定價金廿錢送料三錢

實地踏査に基づく　フレーベル全傳　高市慶雄先生著　定價金一圓五十錢送料六錢

幼稚園律動遊戯曲譜集　大阪市保育會編　全二册定價金二圓

附　競記憶感覺爭遊戯・動作篇

構成々分を主としたる　幼稚園遊戯の保育要諦　大阪市幼稚園共同研究會第六區編

第一卷　動作集（金三圓）・第二卷　曲譜集（金二圓）

子供の舞踊　石井漠先生著　定價金二圓五十錢送料十錢

シルエットの作り方　鈴木重章先生著　定價金一圓送料六錢

㊟　定價參拾五錢

株式會社　日本保育館

本社　東京・神田・神保町二番地　電話(33)六六三二・七八三三番
出張所　大阪・東區・備後町五番地　電話(24)一九三八番